

宇都宮大学
留学生・国際交流センター一年報
2022年度

宇都宮大学留学生・国際交流センター
Center for International Exchange
Utsunomiya University

留学生・国際交流センター年報 2022年度

目次

センター長挨拶

留学生・国際交流センター長 横尾 昇剛	3
---------------------	---

I 留学生・国際交流センターの概要

1 沿革・使命	9
2 組織	10
3 年間行事	11
4 特記事項「新型コロナウイルス感染症への対応」	13

II 留学生・国際交流センターの活動

1 教育・授業

1.1 留学生・国際交流センター開講授業	17
(1) 初級日本語科目	
(2) 中級日本語短期留学プログラム	
1.2 基盤教育および学部・大学院での授業	20
1.3 日本語・日本文化研修留学生プログラム	21
1.4 大学の世界展開力強化事業「アフリカ諸国との大学間交流形成支援」	24
1.5 国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム	30

2 相談体制・生活支援

2.1 基本的認識	33
2.2 相談体制	33
2.3 相談実績	34
2.4 支援活動	34
2.5 各種オリエンテーション	35
2.6 留学生と防災まちあるき	36

3 留学生交流支援

3.1 栃木県地域留学生交流推進協議会	37
3.2 交流支援事業	38
3.3 小・中・高等学校での国際交流	38
3.4 チェコウィーク（日本チェコ交流100周年記念事業）	39
3.5 「ともに学びあうマレーシアウィーク」（マレーシア東方政策40周年記念事業）	40

4 留学生の獲得施策	
4.1 JASSO 主催日本留学オンラインフェア	42
4.2 日本語学校等を会場とした外国人学生のための進学説明会	43
4.3 JICA 主催留学フェア	44
4.4 交換留学生のための大学院進学説明会	44
5 日本人学生の海外派遣留学の推進・支援	
5.1 海外留学説明会	45
5.2 国際インターンシップ	46
5.3 海外渡航前危機管理オリエンテーション	48
5.4 海外英語研修	48
5.5 海外渡航危機管理サービス	52
6 各種協議会等への参加	
6.1 令和4年度全国国立大学法人留学生センター長及び留学生課長等合同会議	53
6.2 令和4年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会	55
6.3 令和4年度国立大学法人留学生センター等留学生指導研究協議会	55
6.4 2022年度第2回国立大学法人留学生指導研究協議会 (兼第56回大阪大学留学生教育・支援協議会)	56
6.5 令和4年度日本語・日本文化研修留学生問題に関する検討会	56
6.6 全国大学ジョイント・ディグリープログラム協議会	57

Ⅲ 資 料

1 留学生在籍状況	
(1) 留学生種別在籍者数	61
(2) 国・地域別留学生数	61
2 国際交流協定校との受入・派遣状況一覧	
(1) 大学間交流協定校との学生派遣・受入実績	62
(2) 部局間交流協定校との学生派遣・受入実績	63
(3) 留学生数の推移	65
(4) 栃木県内高等教育機関に在籍の外国人留学生数の推移	65
3 留学生・国際交流センターの発行物	66
4 留学生・国際交流センターのウェブサイトのリニューアル	66

<センター長挨拶>



留学生・国際交流センター長 横尾 昇剛

新型コロナウイルス感染症の収束がみえつつある中、大学の国際交流に関する取り組みは少しずつですが、新型コロナ以前の状況に戻りつつあるところです。

国費留学生については、2022年4月、10月に「日本語・日本文化研修留学生（日研生）」4名、「教員研修留学生（教研生）」1名、「研究留学生」4名が来日し、また私費外国人留学生は、95名が来日しています。日本人学生の派遣については、交換留学に限ったかたちで海外渡航が再開され、2022年7月～2023年1月にかけて、計38名が渡航しています。少しずつですが、状況の好転が見え始めています。

この他、国際プログラムの推進、海外英語研修、国際インターンシップなどを学内外、国内外の関係者の協力を得ながら着実に実施しています。「大学の世界展開力強化事業：アフリカの潜在力と日本の科学技術融合によるSDGs貢献人材育成プログラム」は、アフリカの6大学の参加を得て、留国センターの教職員をはじめ、国際学部および農学部の教員が協働して行われています。アフリカの教員との月例会議、授業、連続シンポジウム、学生サミットなどがオンラインで実施されています。2023年3月には、アフリカからの教員と学生の来日し、アフリカウィークなどを通じて国際交流をすすめるとともに、日本人の教員と学生のアフリカへの派遣などが実現しています。

国費外国人留学生の優先配置特別プログラム「多様な地域創生に資する工農イノベーション人材育成プログラム」は、東南アジアからの国費外国人留学生と私費外国人留学生および日本人学生がSDGsをテーマに授業や実習を共に交流しながら学んでおり、キャンパス内での国際的な共修の機会となっています。その他、マレーシアのサラワク大学での海外英語研修は、多くの日本人学生が現地での英語研修を体験することができました。国際インターンシップは、昨年度に引き続き、オンライン形式での研修をマレーシアの旅行会社Insar Tours & Travelや国立台湾科技大学日本語コースで実施したところです。2023年度の夏の国際インターンシップに向けて対面での研修の準備を進めています。

学内の国際交流プログラムとして、チェコウィーク、マレーシアウィークを開催し、現地で大学教員となっている本学卒業のOBOG留学生とオンラインで繋ぎながら、国際交流を進めています。

本学学生の自主的な活動組織である留学生サポーターによる来日留学生のための交流イベントなどが再開されつつあります。

海外からの受け入れ、海外渡航については、世界情勢の変化が大きく、見通しが不透明ですが、状況の変化に柔軟に対応しながら、地域デザイン科学部、国際学部、教育学部、工学部、農学部、地域創生科学研究科の協力教員、そして学内外の多様な関係者と連携・協力しながら宇都宮大学における留学生と日本人学生の国際的な共修を推進しています。

2023年3月 吉日

宇都宮大学
留学生・国際交流センター一年報
2022年度

宇都宮大学留学生・国際交流センター

Center for International Exchange
Utsunomiya University

I 留学生・国際交流センターの概要



1 沿革・使命

宇都宮大学に在籍する外国人留学生は、正規生（学部学生及び大学院学生）及び非正規生（交換留学生、研究生及び日本語・日本文化研修留学生等）合わせて、2022（令和4）年10月現在では、世界21カ国から251名の留学生が学んでいる。

留学生・国際交流センター（以下、「センター」という。）は、当初外国人留学生に対し、必要な日本語・日本事情教育及び修学・生活上の指導助言を行うとともに、留学生と地域との交流の推進や海外留学を希望する学生に対する指導助言を行うことを目的として、2002（平成14）年4月に留学生センターとして設置された。

その後、2012（平成24）年4月に「センター」へ改組し、それまでの「日本語教育運営部門」と「留学生指導・相談部門」の2部門に、「国際交流推進部門」を新たな部門として設置して3部門とし、国際交流のより積極的で具体的な業務展開を推進することとした。さらに、2017（平成29）年4月に部門制を廃止し、新たな体制として各学部等の協力教員を加え、各学部等との連携を強化した。

現在、センターには、センター長、専任教員2名（うち1名は副センター長）、特命教授兼コーディネーター1名、センター協力教員7名、コーディネーター1名、また事務体制として留学生・国際交流室が配置され、教育、相談指導、交流事業等の業務に当たっている。2020年度以降、今年度までの約3年間にわたって、COVID-19の拡大防止のためセンター主催事業等の多くが中止またはオンラインやハイブリッドでの実施となっているが、センターが例年実施している業務の主な内容は次のとおりである。

1.1 日本語の授業

「センター」では、研究・交流の場や日常生活の中で円滑な意思疎通が行えるように、留学生にさまざまな学習の機会を用意している。日本語の授業は、初級から上級までをカバーし、日本語のコミュニケーション技能と、日本語で行われる学術・研究活動での表現力の向上を目指すものである。現在、全留学生を対象としたカリキュラムとともに、学部留学生や国費留学生（研究留学生、教員研修留学生、日本語・日本文化研修留学生）を対象とした授業を行っている。

1.2 相談指導

相談指導担当の教員が、修学上や生活の中で生じた問題について、留学生と話し合い、適切な助言を与えている。また、留学生、チューター指導教員の間で連携をとることにより、必要なときに適切な支援ができるシステムづくりを目指している。

1.3 交流事業

「センター」は、留学生と地域社会との充実した交流プログラムづくりに努めている。地元の国際交流団体やボランティアグループと連携し、地域住民とのホームステイ体験事業を行っている。同時に多彩な文化交流活動を通じて、留学生と日本人学生の相互理解を深め異なる文化をお互いに尊敬する態度を養っている。

1.4 留学生・国際交流センター事務室

2019（平成31）年4月の事務組織改編により、学務部が改組され、当時の留学生・国際交流課は留学生・国際交流センター事務室として、「センター」直属の事務組織となった。

その後、2022（令和4）年4月の事務組織改編により、学務部が改組され、留学生・国際交流センター事務室は学務部学生支援課留学生・国際交流室として、センターの事務等を担当する事務組織となった。

同室は、学生及び教員の国際交流に関する様々な業務及びセンター運営にかかる事務も担当し、留学生

が安心して勉学に専念できるよう、以下のような修学上・生活上の支援業務を行っている。

- ①奨学金に関すること
- ②国際交流会館の入退居に関すること
- ③海外留学に関すること
- ④留学生のチューターに関すること
- ⑤地域交流事業についての情報提供に関すること

2 組織

2.1 「センター」及び「センター」事務室の構成（令和5〔2023〕年3月1日現在）

留学生・国際交流センター教員		留学生・国際交流センター事務室	
センター長（地域デザイン科学部教授兼任）	横尾昇剛	室長	神戸幸
教授（副センター長）	湯本浩之	国際交流企画係長	松本晴朗
准教授	飯塚明子	留学生係長	石川香緒莉
特命教授／コーディネーター	夏秋知英	係員	小川麻友
協力教員	地域デザイン科学部 助教	係員	相ヶ瀬佳帆
	国際学部 教授	事務補佐員	畑山明子
	国際学部 教授	事務補佐員	陳忱
	共同教育学部 教授	事務補佐員	古内智美
	工学部 教授	事務補佐員	松本威美
	農学部 准教授	事務補佐員	山本浩之（12/31まで）
	農学部 准教授	特任事務補佐員	手島律子（1/31まで）
		国際インターンシップ事務室	
		コーディネーター	中道利久

<非常勤講師>

〔日本語教育〕 石川 美和 八重島 炎 石 文君 澤村 真由美
 〔Learning+1〕 児島 建彦

2.2 専任教員の所属委員会等（全学・学部・研究科）

「センター」の専任教員2名が所属する全学および学部・研究科の教授会・委員会・ワーキンググループ（WG）等は以下の通りである。

教員名	全学	学部・研究科
湯本浩之 （教授）	学務委員会（委員） 学術国際委員会（研究科委員として） 留学生専門委員会（研究科委員として） 世界展開力強化事業推進室（室員） 国際インターンシップWG（G員） SDGs-WG（G員） 工農イノベーション人材育成プログラムWG（G員） 学生相談室相談員 課外活動団体（ナムチャイ）顧問	教授会（国際学部） 国際キャリア教育委員会（国際学部・委員） グローバル・エリアスタディーズ・プログラム長・同会議（地域創生科学研究科）
飯塚明子 （准教授）	学術国際委員会（オブザーガー） 留学生専門委員会（委員） 就職・キャリア支援委員会（委員） 世界展開力強化事業推進室（室員） 国際インターンシップWG（G員） SDGs-WG（G員） 工農イノベーション人材育成プログラムWG（G員） 課外活動団体（Table for Two 宇都宮）顧問 課外活動団体（Resource Network）顧問	教授会（国際学部） 国際キャリア教育委員会（国際学部・委員） グローバル・エリアスタディーズ・プログラム会議（地域創生科学研究科）



3 年間行事

< 4 月 >

21 日 (水) 令和 3 年度留学生支援事業に関する担当者会議 (主催: 栃木県国際交流協会)

< 5 月 >

20 日 (金) 令和 3 年度春期国際インターンシップ報告会及び令和 4 年度夏期実施概要説明会

28 日 (土) 令和 4 年度新規外国人留学生のためのガイダンス

(主催: 栃木県国際交流協会、栃木県地域留学生交流推進協議会、オンライン)

< 6 月 >

6 日 (月) ~ 8 月 31 日 (水) 外国人留学生のための就活セミナー「日本での就職活動の方法と準備」

(主催: 宇都宮大学就職・キャリア支援センター) (オンライン)

15 日 (木) ONLINE 進学フェア@エリート日本語学校

28 日 (水) ~ 30 日 (金) グローバル人材を対象とした『合同企業説明会』(オンライン)

(主催: 栃木県、栃木県国際交流協会)

< 7 月 >

1 日 (金) 第 34 回栃木県地域留学生交流推進協議会総会 (主催: 栃木県地域留学生交流推進協議会)

※オンライン、令和 4 年度留学生との交流会は中止。

7 日 (木) ~ 25 日 (月) チェコウィーク

14 日 (木) 令和 4 年度夏季海外渡航前危機管理オリエンテーション

(オンライン)

15 日 (金) チェコ交換留学 (派遣) 体験報告会

15 日 (金) カンボジア王国大使基調講演

21 日 (木) 交換留学説明会 (オンライン)

24 日 (日) とちぎインターンシップフェア 2022 (主催: 栃木県)

< 8 月 >

○ 2022 年度夏期国際インターンシップ (オンライン)

1 日 (月) 「日本語・日本文化研修留学生」修了レポート発表会

28 日 (日) JASSO 主催日本留学オンラインフェア

29 日 (月) JASSO 主催令和 4 年度留学生交流実務担当教職員養成プログラム (オンライン)

**令和 5 (2023) 年度
交換留学生募集**

◆派遣期間:
2023年8月以降 (1学期間または2学期間)
※新型コロナウイルス感染症等の状況によっては、
派遣が中止となる場合や、日本からのオンライン
受講のみとなる場合があります。
予めご了承ください。

◆応募締切: **2022年10月20日 (木)**
(※期限厳守)

◆詳細については、留学生・国際交流センター
公式ウェブサイトに掲載中の募集要項を確認
してください。

◆問い合わせ先:
留学生・国際交流室
電話 028-649-8166
メール exchange@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

< 9 月 >

20 日 (火) ~ 22 日 (木) 令和 3 年度オンライン日本留学フェア (オンライン)

30 日 (金) 令和 4 年度 10 月来日留学生オリエンテーション並びに生活上の留意事項説明会 (オンライン)

< 10 月 >

22 日 (土) とちぎ多文化共生フォーラム

(主催: 栃木県、栃木県国際交流協会)

28 日 (金) 令和 4 年度春期海外英語研修

(マレーシア・サラワク大学) 説明会

29日(金) 東京外国語大学留学生日本語教育センター大学進学説明
(オンライン)

< 11 月 >

7日(月) 2022(令和4)年度夏期 国際インターンシップ報告会及び2022(令和4)春期 募集概要説明会
19日(土) ~ 25日(金) マレーシアウィーク
19日(土) 留学体験報告会・ものづくり研修報告会
25日(金) 外務省教育機関関係者向け海外安全対策セミナー
30日(水) 令和4年度全国国立大学法人留学生センター長及び留学生課長等合同会議(主催:東京医科歯科大学、オンライン)
30日(水) 令和4年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会(オンライン)



< 12 月 >

9日(金) 令和4年度留学生指導教員及び事務担当者研修会(主催:栃木県地域留学生交流推進協議会、オンライン)
14日(水) 令和3年度夏期国際インターンシップ報告会及び令和3年度春期説明(オンライン)
21日(水) 留学生・国際交流センターのウェブサイトを更新

< 1 月 >

25日(水) 2022年度日本留学フェア(ミャンマー、カンボジア、ラオス&ASEAN)
26日(木) 令和4年度冬季海外渡航前危機管理オリエンテーション(オンライン)
31日(火) 令和4年度後期中級日本語短期プログラム修了発表会

< 2 月 >

1日(水) 令和4年度とちぎグローバル材育成プログラム留学等成果報告会(オンライン)
3日(金) 国立大学法人留学生センター留学生指導担当研究協議会(オンライン)
21日(火)~3月9日(木) 令和4年度春期海外英語研修(マレーシア・サラワク大学)



< 3 月 >

○令和4年度春期国際インターンシップ
4日(金) 留学生×日本人学生交流会@Zoom
6日(月)~10日(金) アフリカウィーク
14日(火) 日本留学海外拠点連携推進事業(東南アジア)日本留学・就職フェア(タイ)
31日(金) 第46回栃木県地域留学生交流推進協議会運営委員会(主催:栃木県地域留学生交流推進協議会)※メール会議
13日(月)~17日(金) 令和4年度オンライン春期海外英語研修(マレーシア・サラワク大学)

22日（水）UU-A 2022年度海外研修生（派遣・受入）成果報告会

27日（月）令和4年度春期海外英語研修（マレーシア・サラワク大学）報告会

4 特記事項「新型コロナウイルス感染症への対応」

新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の流行により、2020（令和元）年度に続き日本政府及び各国が出入国制限を実施したため、オンライン留学にて交換留学を開始した。新入生ガイダンス等の対面での行事及び授業、学生のキャンパス入構は再開したが2021年度は変異株の大流行に伴って、日本全国各地で緊急事態宣言やまんえん防止等重点措置が発令される中、集団行動を伴う大学教育活動は、留学生教育に限らず感染拡大防止に柔軟な対応が迫られ続けた。本学では、学生をA日程・B日程と分けて、オンライン授業と対面授業を交互に受けさせてキャンパス内の滞在する学生数を減らし、座席定員を本来の半分として教室運用するなど、学生の授業やキャンパスでの課外体験の継続をはかった。学生指導は全学的に、ホームページや教務ポータル、電子メール、ZoomやTeamsなどのウェブ会議ソフト、学生ポータルやC-learningなどの学生向けグループウェア、従来のウェブサイトやFacebookや電子メールを用いることが主となった。

しかし、2021年2月から国民へのワクチン接種が、医療従事者・高齢者から徐々に進み、夏以降は現役や学生の世代も接種できた者が教育実習等受講者に並んで留学等希望者も増え、6月には在留資格を有する外国人学生の再入国と国費外国人留学生の新規入国が再開した。

当センターが開講する日本語科目は、交換留学生を受講者とするため、オンライン授業を主とし、対面授業は、日研生など2020年度以前に入国できていた若干の留学生を対象に留まった。

学外団体主催のホームステイなどの対面交流が不可欠な文化体験行事は、主催団体と相談の上で、感染症対策を講じたオンラインの催しを企画するものもあれば、2021年度に引き続き中止となったものもあった。

○当センター主催で、対象学生に対し個別にオンラインで指導や情報提供した行事

4月及び10月の国際交流会館入居説明会

新規来日留学生（学部留学生を除く）オリエンテーション

新規来日留学生生活上の留意事項説明会／新規来日留学生歓迎会

国際交流会館退去説明会

海外留学渡航前危機管理オリエンテーション

○当センターからオンラインでオンデマンドに情報提供した行事

保護者向け留学情報説明会

学部新入生向け留学情報説明会

学部1年生及び編入留学生オリエンテーション

○当センター主催で中止した行事

夏期英語研修（オーストラリア・サザンクロス大学）

○学外団体主催で中止となった行事

ホームステイウィークエンド in 那珂川（春：田植え）

（主催：那珂川国際交流事業企画運営委員会、那珂川町教育委員会）

外国人留学生ホームステイ受入事業（宇都宮市、主催：NPO法人宇都宮市国際交流協会）

外国人留学生との交流会（主催：栃木県地域留学生交流推進協議会）

国際交流の集い（副題：七夕の集い）（主催：栃木経済交友会）

ホームステイウィークエンド in 那珂川（秋：稲刈り）

（主催：那珂川町教育委員会、那珂川国際交流事業企画運営委員会）

外国人留学生のための就活セミナー（主催：栃木労働局外国人留学生就職支援協議会、共催：宇都宮大学
就職・キャリア支援センター）

（以上、留学生・国際交流室）

Ⅱ 留学生・国際交流センターの活動



1 教育・授業

1.1 留学生・国際交流センター開講授業

(1) 初級日本語補習

平成30(2018)年度より従来の初級日本語補習に代えて、単位の取得を可能とする正規科目として以下のような初級日本語科目を開講している。本科目は、本学および本学各学部が交流協定を結んでいる海外の大学からの交換留学生や研究留学生などを対象としたものである。本プログラムを通して、日本語の基本的な文法や語彙、表現を学びながら、聞くことや話すことを総合的に学び、日本語運用能力の向上を目的とするものである。

	科目名	コマ/週	単位	担当教員	受講学生
前期	初級日本語 I A 文法・語彙①	2	2	石川	特別聴講学生(日研究生・交換留学生・短期留学生など) 大学院生 研究留学生 教員研修生 研究生
	初級日本語 I A 聴解・口頭表現①	2	2	石川	
	初級日本語 II A 文法・語彙②	2	2	石	
	初級日本語 II A 聴解・口頭表現②	2	2	石	
後期	初級日本語 I B 文法・語彙①	2	2	石川	
	初級日本語 I B 聴解・口頭表現①	2	2	石川	
	初級日本語 II B 文法・語彙②	2	2	石	
	初級日本語 II B 聴解・口頭表現②	2	2	石	

(2) 中級日本語短期留学プログラム

1) これまでの経緯

留学生・国際交流センターでは、平成20(2008)年4月から、「宇都宮大学中級日本語短期留学プログラム」(以下、本「プログラム」)を実施してきている。本「プログラム」は、本学および本学各学部と交流協定を締結している海外の大学から派遣された留学生を対象とした留学プログラムである。

海外の交流協定提携校から本学に派遣された外国人留学生は、日本語能力が非常に限られており、その中には、中級日本語の授業を受講できるレベル(日本語検定試験3級くらいのレベルで、日常生活面においては、簡単な買い物ができ、自分で電車に乗られるくらいのレベル)の学生が多かった。これらの留学生は、各学部等で提供されている日本人学生向けの授業を受講することは非常に困難であることから、これらの留学生のニーズに答えるため、検討を重ねた結果、交流協定を結んでいる海外の大学からの留学生を対象とする本「プログラム」を実施することになった。

2) 目的

本「プログラム」は、本学における日本語教育、日本文化等の授業科目を提供するための教育プログラムである。本「プログラム」を通じて、日本語能力を向上させるとともに、日本社会や日本文化に対する理解を深めるとともに、その良き理解者としてのみならず国際社会で活躍できる人材を育成することを目的に、本学での日本語教育、日本文化体験および本学の学生・教職員との交流等を実施するものである。

3) 対象者

本「プログラム」に出願できる者は、以下の2つの要件をすべて満たしたものである。なお、留学生・国際交流センター長が特別に許可する者については、その限りではない。

- ①特別聴講学生(本学および本学各学部と学生交流協定を結んでいる海外の大学の正規課程に在籍している学部学生又は大学院学生)。
- ②渡日前に300時間程度の日本語教育を受けている学生、あるいは(財)日本国際教育支援協会が実施する日本語能力試験3級に合格している学生。

4) 受入れ期間

原則として、10月からの1年間、または4月からの半年間とする。

5) 受入人数

毎年10名～15名程度を予定する。

6) 修了要件

- ① 1年間のコースでは、年間10科目以上を履修し、かつ単位を取得すること。ただし、「短期留学プログラム」のコア日本語科目の中から6科目以上を履修すること。なお、学生の日本語能力によって、基盤教育科目又は国際学部で開講する日本語科目（上級レベル）を用いて代えることができる。
- ② 半年間のコースでは、半期で5科目以上を履修し、かつ単位を取得すること。ただし、「短期留学プログラム」のコア日本語科目の中から3科目以上を履修すること。なお、学生の日本語能力によって、基盤教育科目又は国際学部で開講する日本語科目（上級レベル）を用いて代えることができる。
- ③ 自主研究レポートを提出すること。

7) 令和3年（2021）度中級日本語科目

	科目の種類	科目名	単位	担当教員
前期	コア日本語科目	中級日本語IA文法	2	八重島
		中級日本語IA読解	2	石川
		中級日本語IA作文	2	澤村
		中級日本語IA聴解と会話	2	八重島
		中級日本語II 漢字と漢字文化	2	澤村
		中級日本語II 中級会話A	2	(本年度不開講)
		中級日本語II 中級作文A	2	八重島
		中級日本語II 中級文法A	2	八重島
		中級日本語II 中級聴解A	2	石
		中級日本語II 中級読解A	2	石川
		中級日本語II 中級総合I	2	石
	演習科目（必修）	短期留学生特別演習A	2	戚
基盤教育・国際学部の日本語科目	人文社会系のための専門日本語	1	基盤教育科目 (本年度不開講)	
その他	各自の専門分野に関連する基盤教育及び各学部の開講科目	*		
後期	コア日本語科目	中級日本語IB文法	2	八重島
		中級日本語IB読解	2	澤村
		中級日本語IB作文	2	八重島
		中級日本語IB聴解と会話	2	石
		中級日本語II 中級漢字	2	石川
		中級日本語II 中級会話B	2	石
		中級日本語II 中級作文B	2	石川
		中級日本語II 中級文法B	2	八重島
		中級日本語II 中級聴解B	2	澤村
		中級日本語II 中級読解B	2	八重島
		演習科目（必修）	短期留学生特別演習B	2
	その他	各自の専門分野に関連する基盤教育及び各学部の開講科目	*	

8) 自主研究

「短期留学生特別演習 A・B」を履修する留学生は担当教員と相談した上で研究テーマを決める。さらに、担当教員の指導のもと、研究成果をまとめたレポートを修了時に提出する。

9) 成績評価・単位認定

この教育プログラムの受講生に対して、履修した授業科目、成績評価および単位数を記載した成績書を発行する（ただし、留学センター開講科目については留学生センター長名で発行する）。本学の発行した成績書に基づき、留学生を派遣した大学において単位認定が行われる。但し、学位取得に関する単位として認定するか否かの判断は留学生を派遣した大学に委ねる。

10) 令和3（2021）年度「中級日本語短期留学プログラム」修了者

修了時期	氏名	国籍	派遣元大学	コース
前期（8月）	TAN XIN（譚鑫）	中国	チチハル大学	1年間
前期（8月）	KOU XINYI（寇新易）	中国	チチハル大学	1年間
前期（8月）	CHANG JENG-HONG（張正泓）	台湾	龍華科技大学	1年間
後期（2月）	ZHOU TIANGE（周天歌）	中国	寧波大学	1年間
後期（2月）	JUNG JIO	韓国	慶北大学校	1学期間
後期（2月）	LU HUNG YU	台湾	国立政治大学	1学期間

11) 令和4（2022）年度前期「中級日本語短期留学プログラム」修了発表会

本年度前期の修了発表会を以下の通り実施した。

<実施概要>

日 時：2022（令和4）年7月26日（火）16時00分～16時40分

場 所：オンライン

発表者・発表テーマ：

TAN XIN：「中国の『躺平』と日本の『低欲望』に見る両国の若年世代を取り巻く社会環境」

KOU XINYI：「東野圭吾の作品における母親像について」

CHANG JENG-HONG：「コロナ禍を通して見る台湾における日本メディアの影響」

担当教員：戚傑（国際学部教授）

12) 令和4（2022）年度後期「中級日本語短期留学プログラム」修了発表会

本年度後期の修了発表会を以下の通り実施した。

<実施概要>

日 時：2023（令和5）年1月31日（火）14時20分～15時20分

場 所：4号館4A33

発表者・発表テーマ：

ZHOU TIANGE「ふるさと納税に関する一考察」

JUNG JIO「選挙に対する日本の若年層の関心を高めるためのTwitterの活用法について」

LU HUNG-YU「日本の婚活文化について」

担当教員：戚傑（国際学部教授）

（湯本）

1.2 基盤教育および学部・大学院での授業

留学生・国際交流センターの教員名は、基盤教育センターや国際学部をはじめ、全学科目である Learning+1 や大学院（地域創生科学研究科）などの授業科目を担当している。2022（令和4）年度にセンター所属の専任教員2名および非常勤講師1名が開講した授業科目は以下の通りである。

なお、当初は全学科目の Learning+1 の英語講科目として開講された「Globalization and Society」、「Risk Management」および「International Political Economy」は、それぞれ同じ講義内容で複数の学部の専門科目やとちぎグローバル人材育成プログラム共通科目などとしても同時開講されている。

(1) 基盤教育センター

学期	科目名	担当教員	備考
前期	災害に強いコミュニティづくり	飯塚	
	3.11 学問の不確かさ	清水	第11回を担当（飯塚）
後期	SDGs 入門	各学部担当教員	第8回（4コマ）を担当（湯本）

(2) 国際学部（専門科目）

学期	科目名	担当教員	備考
前期	グローバル教育論	湯本	
	国際協力研究演習 F（グローバル教育論演習）	湯本	
	国際共生研究演習 G（Disaster Studies 演習）	飯塚	
	卒業研究 I	湯本	
	卒業研究 I	飯塚	
後期	Disaster Studies	飯塚	英語開講科目
	外国語臨地演習（英語：サラワク大学）	出羽ほか	飯塚（協力教員）
	卒業研究準備演習	湯本	飯塚（協力教員）
	卒業研究準備演習	飯塚	
	卒業研究 II	湯本	
	卒業研究 II	飯塚	
集中	国際キャリア教育	高橋ほか	全体会と運営を担当（湯本）
	International Career Seminar	栗原ほか	運営を担当（飯塚）
	Globalization and Society	湯本	英語開講科目
	Risk Management	飯塚	英語開講科目
	International Political Economy	兒島	英語開講科目
	Global Management	栗原ほか	湯本・飯塚（協力教員）

(3) 共同教育学部

学期	科目名	担当教員	備考
集中	ESD 教育法	佐々木ほか	湯本（協力教員）

(4) 全学科目（Learning+1）

学期	科目名	担当教員	備考
集中	国際インターンシップ	湯本・飯塚他	単位は各学部で振り替え
	Globalization and Society	湯本	英語開講科目
	Risk Management	飯塚	英語開講科目
	International Political Economics	兒島	英語開講科目



(5) とちぎグローバル人材育成プログラム共通科目

学期	科目名	担当教員	備考
集中	Globalization and Society	湯本	英語開講科目
	Risk Management	飯塚	英語開講科目

(6) 地域創生科学研究科・修士課程（社会デザイン科学専攻）

学期	科目名	担当教員	備考
後期	グローバル教育と開発教育Ⅰ・Ⅱ	湯本	グローバル・エリアスタディーズ・プログラム
	防災と国際協力Ⅰ・Ⅱ	飯塚	グローバル・エリアスタディーズ・プログラム
集中	Global Management	栗原ほか	湯本・飯塚（協力教員）
	Globalization and Society	湯本	地域創生リテラシー科目
	International Political Economics	兒島	地域創生リテラシー科目
通年	グローバル・エリアスタディーズ特別研究	湯本	地域創生リテラシー科目
	グローバル・エリアスタディーズ特別研究	湯本	地域創生リテラシー科目

(7) 地域創生科学研究科・博士後期課程（先端融合科学専攻）

学期	科目名	担当教員	備考
後期	グローバル教育・開発教育特論	湯本	グローバル地域デザイン・プログラム

(湯本・飯塚)

1.3 日本語・日本文化研修留学生プログラム

留学生・国際交流センターでは旧称「留学生センター」として発足以来、文部科学省の国費留学生である「日本語・日本文化研修留学生」（略称「日研生」）を毎年受け入れている。

日研生は10月に来日後、必修科目4科目、および基盤教育科目、各学部専門科目、留学生・国際交流センター科目の中から自分の研修テーマに関連する選択科目12科目の合計16科目を履修する。そして、日本語能力の向上と日本文化に関する専門知識の深化を図るとともに、担当教員や指導教員の下で研修を進め、帰国までにその成果を研修レポートとして提出する。

(1) 授業科目

科目種別	学期	授業科目名	単位数	開講部局
必修科目 (4科目)	前期 (※1)	日本語・日本文化Ⅱ	2	留国センター
		日研生特別研究Ⅱ	2	留国センター
	後期 (※2)	日本語・日本文化Ⅰ	2	留国センター
		日研生特別研究Ⅰ	2	留国センター
選択科目 (12科目)	上級レベル日本語科目	日本語アカデミック・リーディングⅡ	1	基盤教育
		日本語アカデミック・プレゼンテーション	1	基盤教育
		科学技術のための専門日本語 (R4年度不開講)	1	基盤教育
		人文社会系のための専門日本語 (R4年度不開講)	1	基盤教育
	言語・日本文化 関連の科目	Japanese Communication Arts	2	基盤教育
		Japanese Communication Arts (R4年度不開講)	2	基盤教育
		Globalization and Society	2	国際学部

	グローバル教育論	2	国際学部
	移民と多文化教育	2	国際学部
	多言語コミュニケーション学 A	2	基盤教育
	多言語コミュニケーション学 B	2	基盤教育
	日本語論	2	国際学部
	日本語史	2	国際学部
	言語比較論 (R4 年度不開講)	2	国際学部
	日本文化論 A	2	国際学部
	多文化共生コア B (異文化間コミュニケーション)	2	国際学部
	日本文学概説 A	2	共同教育学部

※1 前期：令和3年度(2021/2022)日研生対象

※2 後期：令和4年度(2022/2023)日研生対象

(2) 2021 / 2022 年度日研生の研修活動

本(2022)年度に入ってもコロナ禍の影響が残る中で、2021年10月来日予定であった4名の日研生のうち、すでに2021年12月にベトナムから来日した1名に続いて、2022年4月以降に、残る中国、韓国、タイから3名が来日することができた。限られた期間ではあったものの訪日を実現したことや、本学での対面での授業を受講することができた。

また、6月には大学院の「工農イノベーション人材育成プログラム」の「SDGs セミナー」として実施された船生演習林での実習に参加したほか、栃木県内の歴史文化や自然環境の理解を図ることを目的とした学外研修を「日研生特別研究 II」で実施した。

<実施概要>

A：船生演習林での実習体験

- 1) 日 時：2022年6月4日(土) 9:00～16:30
- 2) 研修先：農学部附属船生演習林
- 3) 参加プログラム：

「SDGs セミナー」工農総合科学専攻「工農イノベーション人材育成プログラム」主催「SDGs セミナー：森林と土壌」(担当教員：大久保達弘・平井英明〔いずれも農学部〕)
- 3) 参加者：日研生4名
- 4) 引率者：湯本浩之・飯塚明子



船生演習林にて



枝打ち作業体験(船生演習林)

B：学外研修

- 1) 日 時：2022年8月3日（水）9:00～17:00
- 2) 研修先：日光江戸村および鬼怒川ライン下り
- 3) 参加者：日研生2名
- 4) 引率者：湯本浩之・飯塚明子



日光江戸村にて



煎餅焼き体験（日光江戸村）

(3) 2022（令和4）年度「日本語・日本文化研修留学生修了レポート発表会」

2022年8月に1年間の研修成果をまとめた修了レポートの発表会を対面で開催し、1年間のプログラムを無事に修了した。かれらの研修テーマは以下の通りであったが、日本語や日本文化に関するたいへんユニークなテーマが取り上げられており、学生たちの日本文化や日本社会に対する関心の高さをうかがうことができた。なお、2023年1月に研修論文集を発行したので、詳細は同論文集を参照されたい。

<実施概要>

- 1) 日 時：2022年8月1日（月）15:00～16:30
- 2) 会 場：4号館B棟1階103教室
- 3) 内 容：（司会）飯塚 明子（「日本語・日本文化研修留学生プログラム」担当教員）

①開会の辞：湯本 浩之（留学生・国際交流センター・副センター長）

②修了レポート発表：

1) 「2010年代『異世界』ジャンルにおけるのマンネリとその解消：アニメ化された作品を中心に」
Do Hanyul（ド・ハンユル、韓国、慶北大学校）

2) 「新型コロナウイルス感染症が日本の在籍外国人留学生の学習に与える影響とその対策」

Hu Yi（フ・イー、中国、浙江師範大学）

3) 「日本におけるタイコスメの普及についての考察」

Panida Spaokij（パニダー・スパオキット、タイ、カセサート大学）

4) 「宇都宮大学生における間違いやすい敬語表現に関する実況調査」

Trinh Thi Phuong Ha（チン・ティ・フオン・ハー、ベトナム、ハノイ大学）

③閉会の辞：飯塚 明子（日本語・日本文化研修留学生プログラム」担当教員）



修了レポート発表会

(4) 令和 4 (2022) 年度「日本語・日本文化研修留学生」の受け入れ

今年度は COVID-19 に関する日本政府による水際対策が一部緩和されたことから、空港近辺のホテルでの待機が必要となった一人を除いて、2022 年 9 月末には 3 名が国際交流会館に入居することができた。2022 年度の学事暦の後期にあたる研修前半（10 月～3 月）では、10 月上旬から日本語・日本文化研修留学生プログラムの必修科目のほか、日本語科目等の選択科目の受講を開始した。そのほか、必修科目「日研生特別研究 I」の一環として、国際学部附属多文化公共圏センター及び日光市国際交流協会の共催による「国際交流都市日光の再発見」プロジェクト（10 月 18 日オリエンテーション、10 月 25 日学習会、11 月 15 日ワールドワーク〔日光西町エリア〕、12 月 10 日事後報告会）に参加した。また、11 月 12 日に留学生と地域の人々との交流や防災意識の向上を目的とした留学生・国際交流センターが主催する「留学生と防災まちあるき」に参加した。

なお、後期の授業終了時点（2023 年 1 月）での研修テーマは以下の通りである。研修後期にあたる来年度前半は、さらにテーマを検討しながら修了レポートを執筆していくこととなる。

名前	国籍	大学名	研修テーマ
WONG TSZ YIU (黄芷瑤、ウォン・チ・ヨー)	香港	香港大学	日本食のグローバル化の歴史、現在と未来
HA QUYNH PHAM HAI (ハー・ファン・ハイ・クイン)	ベトナム	ハノイ大学	現代日本社会における思いやりの欠如
SUJIRAT PIMRAWEE (スジラット・ピムラウィー)	タイ	カセサート大学	日本における敬語
KRUSNIN DIMITRI (クルッシュニン・デイミトリ)	ドイツ	トリア大学	日本語学習者を対象としたオノマトペへの理解

(飯塚)

1.4 大学の世界展開力強化事業「アフリカ諸国との大学間交流形成支援」

(1) 経緯

文部科学省では、「国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指し、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行う事業対象国・地域の大学との国際教育連携の取組を支援すること」を目的として、2011（平成 23）年度から「大学の世界展開力強化事業」を実施している。

本学は、2020（令和 2）年度の公募事業「アフリカ諸国との大学間交流形成支援」（タイプ A: スタートアップ型）に対して、「アフリカの潜在力と日本の科学技術融合による SDGs 貢献人材育成プログラム」を申請し、同年 12 月に採択された。

採択後には本事業の推進に向けては、2021（令和 3）年 2 月に、学術国際委員会の下に世界展開力強化事業推進室が設置され、当センターからは、平井英明前センター長、湯本浩之副センター長、飯塚明子教員の 3 名が室員として参加した。本年度は、平井前センター長に代わって、横尾昇剛センター長のほか、湯本・飯塚の両教員が室員として参加し、センター事務室がその実務を引き続き担当することとなった。

(2) 事業概要

1) 事業期間：2020 年度～2024 年度（5 年間）

2) 事業目的：

文理融合の教育研究を特徴とする宇都宮大学大学院地域創生科学研究科における、農学部および国際

学部関係のプログラムが、アフリカにおいて食料生産から流通・加工・販売システムまで含めた高生産性農業を中心として、地域社会の潜在力や社会構造に基づく持続的発展のあり方を理解し、日本とアフリカの共同事業に貢献できる人材育成を目的とする。

3) 交流プログラムの概要：

- ①分子農学およびスマート農業に基づく高生産性農業の確立
- ②高生産性農業や在来知に基づく持続的地域社会の構築

4) 連携大学

- アディスアベバ大学（エチオピア）
- ガーナ大学（ガーナ）
- ジョモ・ケニヤッタ農工大学（ケニア）
- ダルエスサラーム大学（タンザニア）
- ネルソンマンデラアフリカ科学技術大学院大学（タンザニア）
- メル科学技術大学（ケニア）

(3) 「世界展開力強化事業推進室」会議の開催

2022年度は以下の通り計10回の推進室会議を開催した。なお、同年度の「推進室」の構成員は下表の通りである。

<開催日>

- 第1回（5 / 10） / 第2回（6 / 13） / 第3回（7 / 29） / 第4回（9 / 13） / 第5回（10 / 27）
 第6回（12 / 2） / 第7回（1 / 13） / 第8回（2 / 8） / 第9回（2 / 28） / 第10回（3 / 28）

<構成員>

役名	氏名	所属・役職
室長	横田 信三	農学部教授
副室長	阪本 公美子	国際学部教授
コーディネーター	夏秋 知英	留学生・国際交流センター特命教授
室員	横尾 昇剛	留学生・国際交流センター長
	大森 玲子	地域デザイン科学部教授
	糸魚川高穂	地域デザイン科学部助教
	吉田 一彦	国際学部教授
	栗原 俊輔	国際学部准教授
	青山 真人	農学部准教授
	西川 尚志	農学部准教授
	煉谷 裕太郎	農学部助教
	湯本 浩之	留学生・国際交流センター教授
事務局	飯塚 明子	留学生・国際交流センター助教
	神戸 幸	留学生・国際交流センター事務室長心得
	松本 晴朗	留学生・国際交流センター事務室国際交流企画係長
	手島 律子	留学生・国際交流センター事務室
	山本 浩之	留学生・国際交流センター事務室

(4) UU-A 月例会議

アフリカ側の6大学の関係者との「月例会議」を2022年度は計9回（第12回～第20回）開催した。

<開催日：いずれもオンライン会議>

- 第12回（4 / 8） / 第13回（5 / 20） / 第14回（6 / 22） / 第15回（8 / 3） / 第16回（9 / 20）
 第17回（11 / 1） / 第18回（12 / 7） / 第19回（1 / 18） / 第20回（2 / 13）

(5) UU-A サマープログラム “必修集中講義「Global Management」” の開講

- 1) 講師：アフリカの大学 6 名（各大学から 1 名づつ）および本学教員 8 名
- 2) 講義回数：全 16 回（リアルタイム講義 3 回、オンデマンド講義 13 回）
- 3) 開講期間：2022 年 6 月 1 日～7 月 15 日
- 4) 講義方法：リアルタイム講義（Zoom によるオンライン授業、各回ともに 17:40～19:10）
第 1 回（6 月 1 日）／第 2 回（6 月 27 日）／第 3 回（7 月 15 日）
担当教員：横田信三・阪本公美子・栗原俊輔・湯本浩之・夏秋知英
オンデマンド講義（計 13 回）

＜アフリカ 6 大学講師＞

Dr. Angela Gerald Mkindi（ネルソンマンデラアフリカ科学技術大学院大学）
Dr. Deborah Atobra（ガーナ大学）／Prof. Eric M. Muchir（メル科学技術大学）
Dr. Kassa Michael（アデイスアベバ大学）／Dr. Mkabwa Manoko（ダルエスサラーム大学）
Dr. Robert Mbeche（ジョモ・ケニヤッタ農工大学）

＜本学講師＞

青山真人／大谷幸利／カバリエロ優子／阪本公美子／B・シュレーガ／藤倉修一／吉田一彦

5) 成績評価および単位：

各回 10 点満点でレポートか小テストで採点し、合計 150 点満点中 90 点以上獲得で修了証（Certificate of Achievement）を、130 点以上には優秀賞を授与。宇大生には地域創生科学研究科「地域創生リテラシー」科目の「Global Management」（2 単位）を付与。

- 6) 履修登録者数：267 名（うち本学 70 名、アフリカ 6 大学 197 名）
- 7) 修了証授与者数：130 名（うち本学 61 名、アフリカ 6 大学 69 名）

(6) UU-A 連続国際シンポジウム

教員間の研究交流の一環として、本「推進室」室員や外部の専門家を講師とした「連続国際シンポジウム」を本年度はオンラインで全 6 回（通算第 5 回～第 10 回）開催した。実施概要は次の通り。

参考 URL：<https://uu-a.utsunomiya-u.ac.jp/symposium/>

＜実施概要：日時はいずれも日本時間＞

- 1) 第 5 回：2022 年 9 月 30 日 18:00～20:00
講師①：山根健治氏（宇都宮大学農学部長）
演題：世界の花市場と福祉における花の役割
講師②：萩生田愛氏（AFRIKA ROSE 創業者&取締役）
演題：アフリカローズが引き起こすアグリ・ソーシャルイノベーション：アフリカと日本をつなげたアグリビジネス展開のリアル
講師③：Dr. Eric MWORIA（メル科学技術大学講師）
演題：ケニアの切り花産業の台頭と世界的規模での展開
参加者数：133 名。

- 2) 第 6 回：2022 年 11 月 11 日 17:30～19:00
講師：田中樹氏（撰南大学農学部教授）
演題：西アフリカ熱帯半乾燥地での小規模生業の改善と土壤荒廃の抑制
参加者数：84 名。



- 3) 第7回：2022年12月14日17:30～19:00
 講師：Renato Miyagusuku氏（宇都宮大学工学部助教）
 演題：野外ロボット学：自立ナビゲーションと応用
 参加者数：54名。
- 4) 第8回：2023年1月20日16:00～17:30
 講師：横田信三・阪本公美子
 演題：SDGsに貢献するアフリカの在来知に関する国際学生合同シンポジウム
 参加者数：40名（発表学生：16名）
- 5) 第9回：2023年1月31日17:30～19:00
 テーマ：「害獣・害虫対策、どうする？」
 講師①：Dr. Meheretu Yonas（スウェーデン農業大学）
 演題：アフリカにおける齧歯類による被害に対する新たな対策
 講師②：Dr. Angela Mkindi（ネルソンマンデラアフリカ科学技術大学院大学）
 演題：防虫機能のある植物の利用：タンザニアにおける研究者と農業従事者の連携の体験から
 講師③：小寺祐二氏（宇都宮大学雑草管理教育研究センター准教授）
 演題：日本のイノシシにおける豚熱の発生とまん延
 参加者数：32名。
- 6) 第10回：2023年3月7日・8日いずれも17:00～19:00
 シンポ1「アフリカ諸国における農業・鳥獣管理と科学の役割」
 講演者：Dr. Bezawork Afework（アディスアベバ大学教授）
 Dr. Cynthia Mugo（メル科学技術大学教授）
 Dr. Raphael Ayizanga（ガーナ大学教授）
 シンポ2「アフリカ潜在力を活かした持続的発展に向けて」
 講演者：Dr. Linus Munishi（ネルソンマンデラアフリカ科学技術大学院教授）
 Dr. Mkabwa Manoko（ダルエスサラーム大学教授）
 Dr. Robert Mbeche（ジョモ・ケニヤッタ農工大学教授）
 参加者数：約80名。

(7) 「宇都宮大学 Africa Week」の開催

2023年3月にアフリカ6大学から教員と大学院生を受け入れ、3月6日から10日まで「宇都宮大学 Africa Week」を開催した

＜実施概要：日時は日本時間＞

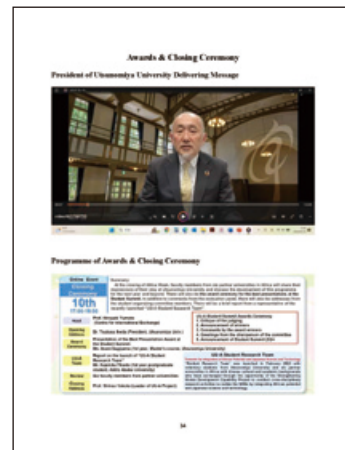
- 1) 開会式（3月6日15:30～18:00）
- 2) シンポジウム1・2（3月7日・8日17:00～19:00）
 「第10回UU-A連続国際シンポジウム」として実施した。
 ※上記（6）を参照。
- 3) UU-A学生サミット（3月6日～10日）
 ※下記（8）を参照
- 4) 成果報告会（3月22日：16:00～18:00）



(8) UU-A Student Summit (学生サミット)

本学およびアフリカの6大学の学生による研究発表をオンデマンドの学会方式で実施した。実施概要は次の通り。

- 1) 開催期間：2023年3月6日～10日
- 2) 実施方法：発表を希望する学生は、事前登録をした上で、発表内容の録画したビデオをオンライン上に事前に提出。参加学生は、学生サミット期間中にそのビデオを視聴して、チャット上での意見交換を実施した。
- 3) 閉会式・授賞式：3月10日午後5時（日本時間）より、ZOOMでリアルタイムに開催。池田学長のビデオメッセージを放映。5名の優秀発表者を表彰した。
- 4) 企画運営：宇大とアフリカ6大学の学生が委員会を組織して、企画・運営にあたった。
- 5) 参加登録者数：70名。
- 6) 発表者数：発表要旨ならびにビデオを最終的にアップロードできた学生は23名であった。
 <内訳> ジョモ・ケニヤッタ農工大学：2名
 アディスアベバ大学：3名
 メル科学技術大学：4名
 ダルエスサラーム大学：2名
 ネルソンマンデラ科学技術機構：4名
 ガーナ大学：1名
 宇都宮大学：6名
- 7) 報告書：報告書(Proceeding)として「UU-A Student Summit 2023: Summit Programme and Abstracts」を発行した。



(9) 大学院科目との連携

本事業の実施に際しては、地域創生科学研究科が開講する「地域創生リテラシー」科目内にある次の実践力科目と連携した。

- 1) 「Global Management」:
上記(5)を参照されたい。
- 2) 「臨地研究 (On-site studies)」:
2022年度は、Global management 受講者から「アフリカの潜在力」に関する発表者を募り、交流授業を実施した。集大成として学生シンポジウム(第8回連続国際シンポジウム)を1月20日に実施し、8名のアフリカの大学からの学生と6名の宇都宮大学生が発表し、最終的に3名の宇都宮大学生に臨地研究2単位を付与し、10名に修了証(Certificate)を授与した。
- 3) 「実践フィールドワーク」:
上記(6)の「UU-A 連続国際シンポジウム」と連携した。シンポジウムを3回以上聴講し、自分の興味のあるテーマについて調査した後、条件を満たせば「実践フィールドワーク」の単位を付与している。しかし、残念ながら2022年度は履修学生はいなかった。

(10) アフリカ 6 大学との協定状況

本事業のアフリカ側の参加大学との大学間の協定状況は以下の通りである。

1) 協定締結済み：

2018 年：ガーナ大学

2021 年：アデイスアベバ大学／ネルソンマンデラ科学技術大学院大学（いずれも新規）

2) 2022 年度締結：

ダルエスサラーム大学（8 月）／ジョモ・ケニヤッタ農工大学（23 年 2 月 ※ 協定延長）

3) 2023 年度に締結予定：

メル科学技術大学

(11) 学生・教員の相互交流プログラム

1) 派遣学生・教員：

2022 年度は、長期 1 名と短期 4 名の相互学生交流プログラムを実施した。本学からの派遣学生は、事前に「臨地研究」および事前ワークショップとして「アフリカの課題から考える科学技術融合ソリューション研究開発ワークショップ」を受講後、2 月 11 日にガーナ大学へ渡航し、短期学生は 3 月 1 日にガーナ大学学生と一緒に帰国した。長期学生は 2023 年 9 月まで滞在予定である。

宇都宮大学の教員は、夏に 2 名（栗原俊輔・糸井川高穂）が、さらに冬に派遣学生を引率して 1 名（吉田一彦）がガーナ大学をそれぞれ訪問した。また、別予算であるが 2 名（阪本久美子・大森玲子）が 9 月にタンザニアを、2 名（煉谷裕太郎・夏秋知英）が 2 月にケニアを訪問し、それぞれの連携大学との実交流を深めた。

2) 受入学生・教員：

アフリカからの受入学生は、長期・短期ともに 3 月 1 日に来日し、短期学生は 3 月 23 日に帰国。同時にアフリカ 6 大学から 1 名ずつ計 6 名の教員を招聘した。教員は 3 月 11 日に帰国した。その間、本学および栃木県内の見学を実施し、また後述の学生サミットと連動させて Africa Week（3 月 6 日～10 日）を開催した。その後、短期学生は専門とする研究室に所属して研修した。長期学生は 2024 年 2 月まで本学に滞在予定である。



ガーナ大学訪問（栗原教員・糸井川教員）



ダルエスサラーム大学訪問（阪本教員・大森教員）

(12) 大学の世界展開力強化事業（アフリカ）第 9 回実施国内大学会議

「大学の世界展開力強化事業（アフリカ）」を実施している国内大学間の経験交流や意見交換の場として開催されている実施国内大学会議の第 9 回目が開催され、阪本公美子教員が本学の実践に関するプレゼンテーションを行った。

日 時：2023 年 3 月 15 日（水）13：00～14：30

主 催：京都大学・東京外国語大学

場 所：京都大学東京オフィス（東京・丸の内）※ハイブリッド開催

本学参加者：阪本公美子（世界展開力強化事業推進室副室長）※オンライン参加

参考 URL：<https://iafp.africa.kyoto-u.ac.jp/>

(13) 日本・アフリカ大学連携ネットワーク (JAAN) への加入と年次総会への出席

アフリカ諸国の大学との学生交流や学術交流の拡充を目的とする日本・アフリカ大学連携ネットワーク (JAAN: Japan-Africa Academic Network) への本学の加入が、3月に開催された年次総会において承認された。年次総会には湯本浩之の教員がオンラインで出席し、入会に当たっての挨拶を行った。

< 2022 年度 JAAN 年次総会 >

日 時：2023 年 3 月 15 日 (水) 15:00 ~ 17:50

場 所：京都大学東京オフィス (東京・丸の内) ※ ハイブリッド開催

本学参加者：湯本浩之 (留学生・国際交流センター) ※ オンライン参加

参考 URL：<https://jpafacadnet.wordpress.com/>

議 事：

審議事項 ①加盟校について：本学の入会希望が承認された。②入会希望調書について

報告事項 ① 2022 年度事業報告 ②加盟大学の活動報告

勉強会 1. 「大学の世界展開力プラットフォーム事業関連について」

高橋基樹 (京都大学 現代アフリカ地域研究研究科長・教授)

勉強会 2. 「学生向け安全管理」

小松謙一郎 (東京外国語大学 留学支援共同利用センター)

(湯本・夏秋)

1.5 国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム

(1) 経緯

文部科学省では、「海外から我が国の大学に留学する学生を国費外国人留学生として優先的に配置することにより、各大学において、優秀な留学生を獲得する仕組みの構築を促すこと」を目的として、「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」を実施している。

本学は本プログラムに対して、2020 年度に「多様な地域創生に資する工農イノベーション人材育成プログラム」を申請し、2020 (令和 2) 年 12 月に採択された。本プログラムの採択を受けて、留国センター長の平井英明教員 (当時) を中心に、農学部の大久保達弘教員、工学部の堀尾佳以教員、そして、留国センターの横尾昇剛センター長をはじめ、湯本浩之の教員および飯塚明子教員でワーキンググループを構成して、企画運営を進めている。

(2) 本プログラムの実施概要と学生募集

2022 年度は、以下のような実施概要に基づいて、7 月 5 日から学生募集を開始した。

- 1) 目的：多様な持続可能な開発目標 (SDGs) と地域創生に資する工農に関するイノベーションを創出できる人材を育成すること。
- 2) 活動内容：所属専攻の学位プログラムの修了要件を充足した上で、次の活動等に参加する。
 - ① SDGs に関するセミナー (「SDGs セミナー」) に参加し発表する。
 - ② 「技術日本語」(地域創生リテラシー文系科目群) を履修する。
 - ③ 外国人留学生を支援する活動に積極的に参加する。
- 3) 募集専攻：地域創生科学研究科・工農総合科学専攻
[学位プログラム] 光工学・分子農学・物質環境化学・農芸化学・機械知能工学・情報電気電子システム工学・農業生産環境保全学・森林生産保全学

4) 募集対象

- ① 2022 年度に入学した私費外国人留学生または日本人学生で、2022 年 10 月に対象専攻に在籍している者。
- ② 私費外国人留学生は、次の A) B) 両方の語学要件を満たすこと。
 - A) 日本語能力試験 N2 レベル相当以上の日本語能力を有すること。
 - B) TOEFLiBT54 以上もしくは、TOEIC650 以上の英語能力を有すること。

5) 募集人員：私費外国人留学生 3 名、日本人学生 3 名。

6) 申請書類：

- ① 申請書（※ 申請書様式は C-Learning からダウンロード）
- ② 成績証明書（写し可。大学・学部のもの）
- ③ 語学のスコア（写し可）〈私費外国人留学生のみ〉

7) 申請期限：

当初は 2022 年 7 月 29 日（金）までとしたが、追加募集を実施し、その申請期限を 8 月 8 日（月）までとした。

(3) 「SDGs セミナー」の開講

本プログラムの中核となる「SDGs セミナー」を開講したが、2021 年度に実施を予定したものの、コロナ禍の影響で実施が延期された一部の講義や演習を 2022 年度に下記 1) の通り実施した。

また、2022 年度の参加学生を対象とした同「セミナー」については、「オリエンテーション」と「SDGs 演習①」を下記の通り実施し、残りの演習等を 2023 年度に実施することを予定した。

1) 「2021-22 年度 SDGs セミナー」

- ① 「現地フィールド見学」（担当教員：堀尾〔工学部〕）実施日：2021 年 6 月 25 日
内 容：足利学校および足利フラワーパークを見学（※ 工学部のイベントと合同で実施）。
- ② 「オリエンテーション」（担当：堀尾〔工学部〕）実施日：2021 年 11 月 26 日（金）13:00 ～
- ③ 「SDGs 概論とワークショップ」（担当教員：湯本）
実施日：2022 年 5 月 18 日（水）3 コマ 教 室：4 号館 B 棟 1 階 103 教室
内 容：SDGs に関する概要説明とグループワークを実施。
- ④ 「SDGs 演習」
 - A) 「ものづくりと SDGs」（担当教員：堀尾〔工学部〕）
実施日：2021 年 12 月から 2022 年 6 月まで 教 室：オンライン
内 容：参加学生を 3 つのグループに分け、グループごとに「ものづくり活動」を実施し、中間発表会（4 月 19 日）と最終発表会（6 月 24 日）を開催した。
 - B) 「防災と SDGs」（担当教員：飯塚）
実施日：2022 年 5 月 31 日（火）3 コマ 教 室：4 号館 B 棟 1 階 103 教室
内 容：災害の現状と防災の取り組み、災害弱者の支援活動に関する演習を実施した。
備 考：当初は宇都宮気象台を見学する予定だったが、コロナ禍のため中止となった。
 - C) 「森林と土壌と SDGs」（担当教員：大久保・平井〔農学部〕）
実施日：2022 年 6 月 4 日（土）終日（9:00 ～ 16:30）
場 所：宇都宮大学農学部附属船生演習林
内 容：森林生態系の仕組みと役割について、SDGs の視点から実践的に学びことを目的に、演習林内



船生演習林（バスの中でのレクチャー）

での手鋸による枝打ち作業のほか、土壌断面観察を表土と下層土の手触りや色の違いに着目して実施した。

⑤「最終プレゼンテーション」(担当教員：横尾・大久保・平井・堀尾・湯本・飯塚)

実施日：2022年6月29日(水) 3・4コマ

教室：4号館B棟1階103教室

趣 旨：「SDGs セミナー」での学修を参考に、持続可能な開発目標 (SDGs) の達成と持続可能な地域創生に資する工農イノベーションの創出に向けたアイデアを提案して、今後の自身の取り組みを共有した。

内 容：趣旨説明・学生発表 (6名)・質疑応答・教員からの講評・受講認定証の授与。

2) 「2022 年度 SDGs セミナー」

①「オリエンテーション」(担当：堀尾〔工学部〕) 実施日：2022年12月15日(金)

②「SDGs 演習①：ものづくりと SDGs I (ものづくりセミナー)」(担当：堀尾〔工学部〕)

実施日：2022年12月15日(金)～1月6日(金)

内 容：災害時に役立つモノづくり：サラワク大との共同授業 (新型コロナ肺炎と異なる災害による複合災害を想定した際に身の回りにあるもので災害対策グッズを製作する演習)

※ 以下は 2023 年度に実施予定。

③「SDGs 演習①：ものづくりと SDGs II (現地フィールド見学)」(担当：堀尾〔工学部〕)

実施日：2023年5月13日(土) (※ オプションとして実施予定)

④「SDGs 概論」(担当教員：湯本) 実施日：2023年5月16日(火) 5コマ

⑤「SDGs 演習②：防災と SDGs」(担当教員：飯塚) 実施日：2023年5月30日(火) 4コマ

⑥「SDGs 演習③：森林と土壌と SDGs」(担当教員：大久保・平井〔農学部〕)

実施日：2023年6月3日(土) 終日 場 所：宇都宮大学農学部附属船生演習林

⑦「SDGs 演習④：医工学と SDGs」(担当教員：嶋脇) 実施日：2023年6月13日(火) 4コマ

⑧「最終プレゼンテーション」(担当教員：全教員)

実施日：2023年7月4日(火) 教室：4号館B棟1階103教室

(4) 「SDGs セミナー」2021 年度受講認定者

2021 年度の本「セミナー」の参加学生は当初7名であったが、最終プレゼンテーション(2022年6月29日)の終了時に以下の6名に対して、受講認定証を授与した。

	氏 名	所属プログラム
①	Nooradzirah Binti Abdul Rashid	光工学
②	吉田 優佳	光工学
③	Nurshuhada Izzati Binti Suhaimi	物質環境化学
④	Abdul Adzim Bin Abdul Sukor	機械知能工学
⑤	小堂 賢斗	情報電気電子
⑥	飯塚 早紀	森林生産保全学

(5) 「SDGs セミナー」2022 年度受講者

2022 年度の本「セミナー」受講者は以下の5名であった。

	氏 名	所属プログラム
①	李 嘉昱	建築学
②	Nur Fitrah Binti Masaad	機械知能工学
③	佐藤 淳	情報電気電子システム工学
④	Munkhtumur Mungunzaya	農業生産環境保全学
⑤	濱上 百々	森林生産保全学

(湯本)

2 相談体制・生活支援

2.1 基本的認識

下記の〔事前の対策〕と〔様々な制約の中での適切・迅速な対応〕については、毎号ほぼ同じ文章を掲載している。これは留学生・国際交流センターが実施する「相談・指導」の根本に関わるからである。

〔事前の対策〕

留学生の置かれている立場は不安定なものである。一見何の問題もなく、元気で楽しく過ごしているように見える。留学生でも、日本という「異国=外国」での生活は母国同様であるはずがなく、常にストレスと隣り合わせの毎日である。留学生と接する教員・職員は、このことを基本的認識として心にとどめ、日頃から彼らの行動や表情に注意を払う必要があるだろう。そして何らかの変化が見えたとき、留学生に歩み寄り、その変化に危険な要素が含まれていないかどうかを確認することが常に求められている。つまり、すでに起こってしまった問題にどのように対処するかということ以前に、問題を起こさないための事前の解決が極めて重要な任務となる。

〔様々な制約の中での適切・迅速な対応〕

しかしながら、全ての留学生にまんべんなく接することは不可能と言わざるをえない。そこから何らかの問題が生ずることは避けられない事実でもある。実際のところ、大学が提供している生活環境、就学環境は、残念ながら必ずしも適正なものとはいえない。それが原因となり留学生の心理が揺らぎ、留学生の生活に重大な影響を与えることもありうる。留学生を取り巻く環境を改善するには多額の資金が必要となり、大学全体として取り組む姿勢が十分整っていない現実は遺憾と言わざるをえないが、そうした状況であっても、留学生と接する教員・職員は、むしろその中でより良い相談体制、より良い生活支援はどうあるべきかを考えると同時に、様々な制約下の現状でも実践できるものを実践して行くという姿勢が必要である。特に深刻な問題を抱える留学生に対しては、解決に向けて適切に対応し、迅速に行動することが求められる。

2.2 相談体制

留学生・国際交流センター専任教員2名が、生活・就学相談の担当者である。授業中、または授業の前後に何気なく交わす会話も重要である。「相談」と改まって構えるのではなく、留学生が言葉で表すことができないでいる、その時々々の心理状態を自然な対応で探ることが出来るからである。それにより、深刻な事態になる以前に留学生の気がかり、不安、現実的な問題を取り除く役割を果たしている。

2名の専任教員が各自のオフィスアワーを設け、出来る限り留学生の相談に乗れる体制も取っている。留学生は、このオフィスアワーに、授業等で接する機会の多い教員の所へ相談に行く傾向がある。その際、留学生によっては長い滞在中、精神的に不安定な状態に陥る者もある。これはかなり深刻なケースであり、そのような場合、彼らは相談相手として先ず自分が最も信頼でき、しかも母国語でコミュニケーション出来る人を求める。当センターの2名の専任教員はともに、英語に堪能であり、実際に、深刻な問題を抱えて担当教員を訪れた留学生もいる。言語に関しては完璧とまでは行かないまでも、ある程度整った環境であると判断される。留学生・国際交流センター事務室の職員も、留学生の相談に大きな役割を果たしている。彼らが諸手続等を行うために同事務室の窓口に来た際、積極的に留学生に話しかけ、心配事、相談したいことがないかどうか、常に配慮している。特に、交通事故、病気などの連絡が入った場合、休日を問わず、留学生をサポートできる体制となっている。また、英語及び中国語に堪能な職員が数名おり、留学生のサポート体制を強化している。また、留学生国際交流会館に居住する留学生に対しては、主に会館担当職員が日常の相談に当たっているほか、重要な問題や事案に関しては、センターの教員や事務室の職員が対応に当たっている。

この様に、相談体制については、相談・指導担当の教員だけでなく、センターの教員・協力教員・職員が総動員で当たっている現状である。

【令和 4 年度留学生・国際交流センター専任教員のオフィスアワー】

教員名 \ 曜日	月	火	水	木	金
湯本 浩之		12:00~13:00			
飯塚 明子			10:00~12:00		

(以上、横尾)

2.3 相談実績

留学生・国際交流センターでは、留学生の様々な生活上の問題について相談を受けるのは当然のことながら、それに加えて日本人学生の留学関連の相談や、留学生と日本人学生の交友・交流に関するアイデア、企画に関する相談等も行っている。以前は、個々の相談に関する情報(日時、内容、留学生・日本人学生等の種別)を表で示していたが、実際に行った相談を全て記録することが実質的に不可能なので(※近年、メールや電話による、問い合わせ相談等が増加していることもその一因である)、2011 年号以降、表による実績表示を止めている。

主な相談内容は次のとおり。

〔留学生〕

修学・進学／アルバイト／奨学金／住居／各種保証人／在留期間更新・在留資格変更 等

〔日本人学生〕

派遣留学に関する相談／チューター・アドバイザー関連／留学生との交流 等

学生からの相談で深刻なものは、病気やケガ・交通事故等に関するものである。特に交通事故については、学生本人が相手方(多くは相手方の加入している保険会社)と対等に交渉するのはほぼ不可能であるため、事故対応サービス付きの保険(外国人留学生向け学研災付帯学生生活総合保険)への加入を強く推奨しているところである。

2.4 支援活動

(1) 留学生アドバイザー

本学在学生による組織で、日本人学生と外国人留学生間の交流促進のため、各種イベントを企画・実施している。メンバーには、留学経験者・留学予定者の他、既に日本で生活している外国人留学生も含まれており、例年、センターが実施する留学生関連の交流会や、留学生の生活上のサポート等に協力するなど、幅広く精力的に活動している。

(2) チューター

外国人留学生に対し、学習・研究指導(予習・復習の手伝い)を中心に、日本語指導、日常の世話(学内外の案内、諸手続き、買い物、宿舎探しの補助等)を行う。支援を必要とする留学生ごとに、所属学部・研究科や出身国、語学力等を勘案し、チューター 1 名を割り当てている。チューターは、指導教員の判断により必要と認められる期間(原則、来日後 1 年以内)配置される。



チューターについて詳しくはこちら
 チューター登録はこちら
 登録締切は9月15日

2022年度後期
チューター募集!

- 10月から留学生が始まります! 後期に向けて宇都宮大学に留学生が来ます。英語は、ベトナム、タイ、ドイツなど、来日する留学生のためにチューターをやってみませんか?
- チューターにはどんな人が向いているの? 国際交流に興味がある人、海外の友達を作りたい人、留学経験者、留学したい人、積極的に交流できる人など、初めての人でもOK!
- チューター制度とは? 留学生をマンツーマンサポートする制度。指導科目の登録方法、進行へ対応できる、日本語学習の手伝いもできます。機会の見直しもあります。

お問い合わせ先
 留学生・国際交流センター
 028-849-8167 exchange@iua.u.tsu.ac.jp



2.5 各種オリエンテーション

外国人留学生に対しては、交換留学生や学部新入学生を対象に、宇都宮大学において勉学する際に必要な日本語科目、基盤教育関係科目、日本での生活をする上での諸注意等に関するオリエンテーション及び説明会等を以下の通り実施しているが、2022年度は感染症対策から、集会形式で行うオリエンテーションは昨年度に引き続き中止し、オンラインや個別面談での情報提供とした。

(1) 国際交流会館入居説明会

例年は、4月と10月の初旬に年2回、国際交流会館の新規入居者に、会館の施設管理やキッチン・シャワー室・洗濯室等の共同施設の利用方法や注意事項を国際交流会館集会室にて集会形式で行っている。

2022年度は、該当の入居者個別に留学生係から指導した。

(2) 新規来日留学生（学部留学生を除く）オリエンテーション

例年は、4月と10月の初旬に年2回、交換留学生・日研生等の非正規生の留学生を対象に、当センター開講科目の初級・中級・上級別の授業説明、日本語・日本文化研修プログラム説明、中級日本語短期留学プログラム説明、日本語授業履修案内を行っている。

2022年度前期は、在籍留学生個別に留学生係から指導した。後期は、以下のとおりオンラインにて開催した。

①日 時：令和4年9月30日（金）14:00～14:40

②実施形態：オンライン（Zoom）

③内 容：

- 1) 留学生・国際交流センター長挨拶
- 2) 留学生・国際交流センター教員及び留学生・国際交流室職員の紹介
- 3) 日本語授業、履修登録方法等の説明

(3) 新規来日留学生生活上の留意事項説明会

例年は、4月と10月の初旬に年2回、交換留学生・日研生等の非正規生の留学生を対象に、役所の手続きや防犯・交通安全指導を、宇都宮東警察署の講話含めて行っている。

2022年度前期は、対象となる留学生個別に留学生係から指導した。後期は、以下のとおりオンラインにて開催した。

①日 時：令和4年9月30日（金）14:45～15:30

②実施形態：オンライン（Zoom）

③内 容：

- 1) 日本で生活する際に注意すべき大事なことについて
- 2) 防災カードについて

(4) 新規来日留学生歓迎会

例年は、4月下旬と10月下旬に、新規来日留学生歓迎のために、学長及び関係理事、各学部の留学生指導担当教員や、留学生チューターや先輩留学生等、合計およそ100人以上が参集して顔合わせのための懇親会を開催している。

2022年度は、COVID-19の感染状況を考慮して中止とした。

(5) 学部新入学生オリエンテーション

例年は、4月上旬に、学部正規生の新入生、特に国際学部開講日本語科目を履修する留学生を主な対象に、授業履修方法や日本での生活における注意事項について説明会を開催している。

2022 年度は中止し、生活上の注意事項はセンターホームページに情報掲載にて対応し、聴講届の提出方法等のキャンパスライフへの助言は、留学生係及び各学部担当係等から個別に行った。

(6) 国際交流会館退去説明会

例年は、7月と3月に退居予定者に対して、帰国の航空券の手配や、会館退去の各種手続きについて会館の集客室で説明会を行っている。

2022 年度は、留学生係から対象者個別に指導した。

(7) 交換留学生のための大学院進学説明会

例年は、7月中旬に、来日中の交換留学生を対象に、本学の学部や大学院、各入試の概要説明を行い、交換留学終了後の日本への再留学を促進する入試広報を行っている。

2022 年度は、対象者が僅少であったことから中止とした。



(以上、留学生・国際交流室)

2.6 留学生と防災まちあるき

2022 年 11 月 12 日に、13 か国からの留学生と日本人学生、地域の方々など合計 46 人が参加して、「留学生と防災まちあるき」を実施した。石井町にある国際交流会館（留学生寮）から陽東地域コミュニティセンターまでグループに分かれて歩き、災害時に危険な箇所のほか、避難所や交番を確認した。コミュニティセンターでは、防災クイズと振り返りのワークショップを行い、地域の方からは「この地域にこんなに多くの留学生がいるとは思わなかった」、「外国の方の目線でまちあるきができた」というコメントをはじめ、(留) 学生からは、「地域の方が同行していただき、防災を学ぶいい機会でした」、「実際に周辺エリアを歩いてみたことで、災害時の移動にかかる時間や、危険が想定される場所などをイメージしやすくなり、大変満足しました」、「多様なバックグラウンドを持った人とコミュニケーションを取りながら学ぶことができました」というコメントが寄せられ、防災をテーマとした地域での国際交流の機会と



なった。

<実施概要>

日 程：2022 年 11 月 12 日 (土)

参加者：46 名 (宇大生、留学生、地域の方々など)

コース：国際交流会館 (留学生寮) → 石井小学校 → 陽東中学校 → 宇都宮大学陽東キャンパス → 陽東地域コミュニティセンター。

引率者：飯塚明子 (留学生・国際交流センター)

(飯塚)



3 留学生交流支援

3.1 栃木県地域留学生交流推進協議会

本協議会は、栃木県における留学生等の円滑な受入の促進と交流活動の推進を図り、地域住民の国際理解に寄与するために設立されたもので、県内の高等教育機関、国の機関、地方公共団体、経済団体及び国際交流団体等で構成されている。本学が事務局となっており、本年度は6月に総会、3月に運営委員会(メール会議)を開催した。

(1) 栃木県地域留学生交流推進協議会総会

- ①開催日時：令和4年7月1日(金)9:30～
- ②議 題：1) 令和3年度栃木県地域留学生交流推進協議会実施事業について
2) 令和3年度本推進協議会実施事業経費決算について
3) 令和4年度本推進協議会実施事業計画(案)について
4) 令和4年度本推進協議会実施事業経費予算(案)について
5) 令和4年度本推進協議会感謝状贈呈について
6) その他
- ③報告事項：1) 令和3年度県内各種団体等による主な外国人留学生交流・支援事業について
2) 令和4・5年度の監査員について
3) その他

(2) 栃木県地域留学生交流推進協議会・運営委員会

本運営委員会は、栃木県地域留学生交流推進協議会規約(以下「協議会規約」という。)第8条第2項の規定に基づき設置され、協議会規約第3条に規定する協議事項について、具体的な実施方策を協議している。

- ①開催日時：令和5年3月31日(金)
- ②開催方法：メール会議
- ③議 題：1) 令和4年度本推進協議会実施事業について
2) 令和4年度本推進協議会実施事業経費決算について
3) 令和5年度本推進協議会実施事業計画(案)について
4) 令和5年度本推進協議会実施事業経費予算(案)について
5) 令和5年度本推進協議会感謝状贈呈候補者(案)について
- ④報告事項：1) 令和4年度県内各種団体等による主な外国人留学生交流支援事業について
2) 本推進協議会会計に係る令和4・5年度監査員について
3) その他

(3) 留学生指導教員及び事務担当者研修会

本研修会は、栃木県内の大学、短期大学、高等専門学校において、留学生に対する教育、指導・相談を担当する教職員が一同に会し、留学生の受入れ・派遣における教職員相互の協力のあり方等について討議することにより、今後の留学生指導・支援の充実に資することを目的として、本「推進協議会」が開催するものである。本年度は、以下のとおり研修会をオンラインで実施した。

- ①開催日時：令和4年12月9日(金) 13:30～15:00
- ②情報交換：卒業後、就職先での在留資格変更について

3.2 交流支援事業

(1) 令和4年度新規留学生のためのガイダンス及び懇親ティーパーティー

例年、地域留学生交流推進協議会及び公益財団法人栃木県国際交流協会共催による新規留学生のためのガイダンス及び懇親ティーパーティーを開催している。

ただし、今年度は COVID-19 の感染拡大防止のため中止とした。

(2) 令和4年度外国人留学生との交流会

例年、宇都宮大学内において、県内高等教育機関に在籍する留学生、栃木県地域留学生交流推進協議会構成員及び宇都宮大学教職員等が参加する地域留学生交流推進協議会主催による外国人留学生との交流会を開催している。

ただし、2022年度は、COVID-19 の感染拡大防止のため中止とした。

3.3 小・中・高等学校での国際交流

例年、栃木県内の小・中・高校からの要請により、本学の留学生を各学校の授業等に派遣し、交流や対話の場を提供している。

2022年度は、オンラインによる交流会を含めて3件の実施となった。

<交流実績：計3件>

(1) 栃木県立栃木翔南高等学校

①日 程：2022年12月6日（火）

②派遣人数：日本語・日本文化研修留学生4名

③交流内容：

1・2年生（各4クラスずつ）とのクラス単位での交流。自国の様子・文化についてのプレゼンテーション及び高校生からの質疑応答。

(2) 宇都宮大学教育学部附属中学校

①日 程：2022年12月9日（金）

②派遣人数：学部・大学院留学生10名

③交流内容：オンラインでの日本語で母国のプレゼンテーション、生徒との交流。

(3) 栃木県立宇都宮高等学校

①日 程：2022年12月12日（月）

②派遣人数：学部・大学院留学生6名

日本語・日本文化研修留学生1名

③交流内容：日本語・英語で母国のプレゼンテーション、生徒からの質疑応答。



宇都宮高校にて

(以上、留学生・国際交流室)



3. 4 チェコウィーク（日本チェコ交流 100 周年記念事業）

在日チェコ共和国大使館から、日チェコ交流 100 周年バナー展示のご依頼があり、兼ねて交換留学等で交流が深いチェコ共和国を題材とした国際交流イベントを、チェコウィークと題して、2022 年 7 月に開催した。

(1) 日チェコ交流 100 周年バナー展示

- 日 程：7 月 7 日（木）～7 月 25 日（月）
- 場 所：グローバルコモンズ+（プラス、峰 4 号館 B 棟 1 階）
- 概 要：日本とチェコの交流史を掲示
- 主 催：宇都宮大学・チェコ大使館・栃木県庁
- 展 示 物：①チェコ交流史案内バナー（210×86）約 20 枚
②宇大生作成のチェコ概要紹介掲示物



(2) チェコ交換留学（派遣）体験報告会

- 日 程：7 月 15 日（金）15：00～15：40（チェコ時間 8：00～8：40）
- 場 所：グローバルコモンズ+（峰 4 号館 B 棟 1 階）
- 概 要：チェコ国パラツキー大学に滞在中の本学交換留学生在が留学生生活をオンタイム報告プログラム（※ハイブリッド開催）：
 - 開会挨拶：池田 宰（本学学長）
 - 2021 年度パラツキー大学交換留学（派遣）者留学報告と質疑応答
 - 報告者：伊藤結希乃（国際学部 4 年、留学期間 2021 年 10 月～2022 年 6 月）
 - 質問者：鈴木 福（国際学部 3 年、留学期間 2023 年 2 月～6 月）
 - 上田 智香（国際学部 3 年、留学期間 2023 年 2 月～6 月）
 - 講 評：池田 宰（本学学長）
 - 佐々木一隆（国際学部教授）
 - ユラ・マテラ（マサリク大学教養学部日本学科准教授、オンライン参加、2007 年 10 月～2008 年 9 月宇都宮大学留学生）
- 司 会：湯本 浩之（留学生・国際交流センター）



バナー展示（グローバル・コモンズ+）



メッセージ放送（イヴォナ先生）

(3) 先輩留学生のメッセージ放送

日 程：7月7日（木）～7月25日（月）

場 所：グローバルコモンズ+（峰4号館B棟1階）

概 要：チェコ出身の本学留学経験者によるビデオメッセージ（本学での留学生活やチェコ文化・チェコの大学紹介）を大型ビジョンで常時放送。

- ①パラツキー大学教員イヴォナ・バレショヴァー（宇大留学 1999 年 10 月～2000 年 9 月）
- ②パラツキー大学大学院生ローベルト・ツァガルダ（宇大留学 2019 年 10 月～2020 年 9 月）
- ③チェコ交換留学（派遣）体験報告会 再放送



（留学生・国際交流室）

3. 5 「ともに学ぶあうマレーシアウィーク」（マレーシア東方政策 40 周年記念事業）

(1) 開催の経緯と趣旨

マレーシアが日本の戦後の経済発展をはじめ、日本人の勤勉さや労働倫理などに学び、自国の社会経済の発展に生かそうとする「東方政策 (Look East Policy)」を開始して以来、今年 2022 年はその 40 周年にあたる。本学では、同政策に貢献すべく、明確な資料があるだけで、平成 5 年頃から留学生受入・派遣をしており、コロナ禍（2019 年度）以前は、マレーシアの政府派遣留学生、私費留学生を合わせて毎年平均 20 人が在籍していた。また、マレーシアのサラワク大学とは 2017 年度に協定を締結して、教員の学術交流をはじめ、学生の交換留学（受入実績：0 名、派遣実績：7 名（交換留学 6 名、うち 3 名オンライン）、私費 1 名）を推進している。さらに、サラワク大学での海外英語研修を 2018 年度から実施しており、コロナ禍にあってもオンライン研修を通じて、学生相互の共修の機会となっている。



外務省認定事業ロゴマーク

こうした本学とマレーシアとの関係を今後も維持強化していくとともに、外務省認定の「東方政策 40 周年事業」の一環として本交流事業を開催し、本学の学生や教職員がマレーシアの社会や文化に対する理解や認識を深め、関係機関との交流や協力をいっそう推進していく機会とした。



(2) プログラム

本事業は、外務省の「東方政策 40 周年事業」の認定を得たほか、駐日マレーシア大使館と公益社団法人日本マレーシア協会から後援と協力を得て実施した。

<トークセッション：2022年11月19日（土）>

①「留学体験報告会：日本とマレーシアに学んで」

日 時：2022年11月19日（土）13：00～14：30

会 場：宇都宮大学 UU プラザ

開会挨拶：池田 宰（本学学長）

ゲスト講演者：モハマド・リザ（駐日マレーシア大使館一等書記官、宇大卒業生）

体験報告者：モハマド・リダ（マラヤ大学教授、宇大卒業生、オンライン参加）・

飯塚早紀（地域創生科学研究科2年）・

作田裕助（農学部4年）・

ハジク・アイマン（工学部3年）

コメント：池田宰（本学学長）・大久保達弘（農学部）

司 会：湯本浩之（留学生・国際交流センター）

②「ものづくり研修報告会：“ものづくり”を通じた学生交流」

日 時：2022年11月19日（土）15：00～16：00

報告者：ナジブ（工学部2年）・李佳昱（修士1年）・

櫛引洸介（工学部2年）・朝倉直音（工学部2年）・

狩野陸人（工学部2年）・土居毅郎（農学部2年）

コメント：堀尾佳以（工学部）※ オンライン

司 会：ハジク・アイマン（工学部3年）



<ポスター・セッション：2022年11月20日（日）～25日（金）>

会 場：宇都宮大学 4号館 B棟 1階「グローバルコモンズ+（プラス）」

内 容：マレーシアの社会文化紹介

研究プロジェクト&研究室紹介

ポスター展示・資料配付（提供：日本マレーシア協会）



登壇者（池田学長と大久保教員）



会場風景（UUプラザ）

（湯本）

4 留学生の獲得施策

4.1 JASSO 主催日本留学オンラインフェア

留学生・国際交流センターでは、日本学生支援機構（JASSO）主催による「日本留学フェア」および「外国人学生のための進学説明会」に毎年参加してきた。「日本留学フェア」は海外会場で開催するもの、「外国人学生のための進学相談会」は、国内会場（東京・大阪）で開催するものであった。2020 年度、2021 年度に引き続き、2022 年度も対面を伴う外国会場での開催はなく、オンライン開催による進学説明会の募集があり、これに参加した。

JASSO 以外の団体が主催する留学フェアも、ポータルウェブサイトで参加大学等の学校・入試情報やプロモーション動画を収集・掲載し、ウェブ会議ソフトで各大学概要紹介動画の放映や個別相談や個別相談等を行う、オンライン形式のみ開催され、本学も下記のとおり参加した。

(1) 2022 年度 JASSO 主催日本留学オンラインフェア

2019 年度までは、国内在住の留学生を対象と海外在住者を対象とわけて開催されていたに対し、2020 年度以降は留学生の居住地は問わず、日本を含む全世界を対象とした留学説明会がオンラインで実施されている。2022 年度は 7 月 30 日（土）・31 日（日）と、8 月 27 日（土）・28 日（日）にわけて開催され、本学は、8 月 28 日（日）に参加した。

1) 主催等

- ①主催：独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）
- ②後援：外務省・独立行政法人国際交流基金・独立行政法人日本貿易振興機構
- ③協力：各国帰国留学生会及び関係機関

2) 実施概要

①日程及び参加機関数：

○7 月 30 日（土）12：00～17：40

大学 17 校（国立 8、公立 1、私立 8）、専修学校 1 校、日本語教育機関 7 校

7 月 31 日（日）12：00～18：50

大学 16 校（国立 8、公立 2、私立 6）、専修学校 2 校、日本語教育機関 7 校

○8 月 27 日（土）12：00～17：40

大学 18 校（国立 8、公立 2、私立 8）、専修学校 1 校、日本語教育機関 5 校

8 月 28 日（日）12：00～18：50

大学 17 校（国立 8、公立 2、私立 7）、専修学校 2 校、日本語教育機関 6 校、その他 1 機関

②配信対象エリア：日本を含む全世界

③参加対象者：

- ・海外在住の高校生・大学生等日本留学希望者、高校等の進路指導担当教員、大学等の国際交流担当者等
- ・日本の高等教育機関への進学を希望する、国内の日本語教育機関等に在籍する外国人学生及び日本語教育機関の教職員等

④開催概要：

- ・フェア特設サイトにおける JASSO 及び各大学等の情報提供
- ・参加機関によるライブセッション ※Zoom 利用
 - ※ライブ配信内容は希望する機関のみ日本留学情報サイトへ 1 か月程度掲載。
- ・日本留学オンラインセミナー（JASSO 企画）※Zoom 利用

3) 本学概要

①日時：8月28日（日）14:20～15:20

②参加者：本学教職員 横尾昇剛（留学生・国際交流センター長）、湯本浩之（同教授）、飯塚明子（同准教授）、神戸幸（留学生・国際交流室長）、松本晴朗（国際交流企画係長）、石川香緒莉（留学生係長）、五十嵐佳帆（留学生係員）

来場者 ログイン瞬間最大値 105 アカウント（本学5アカウント含む）

③進行：本学が開設した Zoom ミーティング（環境は主催指定）に来場者に入室してもらい、グループミーティング形式で、以下の通り、全体説明及び質疑応答を行った。なお、チャットや挙手で質問受付と回答、資料 URL 送付等を行った。

14:20～14:40 本学概要説明（飯塚）

パワーポイント資料に基づき、本学所在地や学部等の説明

14:40～15:20 留学生からの質疑応答（司会：飯塚）

④質問内容

- ・ 各自の志望分野を本学で学べるか（学部や大学院（M）レベル）
語学・文化学、国際法、国際学、農学、日本語教育
- ・ 本学入学に必要な語学力（日本語あるいは英語）、語学試験成績（JLPT や EJU）、本学授業を英語で履修可能か
- ・ オンライン入試で受験可能か
- ・ 奨学金や授業料減免制度について

⑤その他

留学生は、日本語は一定堪能（都内日本語学校生徒より少しつたない～同程度）。質問した学生の国籍は東南アジア各国、台湾、中国等。学部8割、大学院2割程度。

過去の対面式の留学フェアや本学 OC と同様の質問が多く、今回は日本語力が低めの印象で、入学試験や奨学金及び授業料減免の質問を中心に、口頭とチャット、日本語英語両方で案内した。

(2) 2022 年度日本留学フェア（ミャンマー、カンボジア、ラオス & ASEAN）

①日時 2023 年 1 月 25 日（水）

②本学 zoom への参加者数：40 名

(3) 2022 年度日本留学海外拠点連携推進事業（東南アジア）日本留学・就職フェア（タイ）

①日時 2023 年 3 月 14 日（火）

②本学 zoom への参加者数：1 名

4.2 日本語学校等を会場とした外国人学生のための進学説明会

コロナ禍以前は、日本語学校を会場とした、日本語学校在籍の外国人留学生対象の進学説明会に、春から夏にかけて参加しているが、2022 年度も昨年度に引き続き、感染症対策から対面でのイベントは実施されず、下記のオンライン進学説明会に参加した。

(1) ONLINE 国公立進学フェア for 長沼スクール（東京日本語学校）

①日程：2022 年 6 月 15 日（水）10：45～12：15

②参加者：エリート日本語学校 外国人留学生 22 名（学部 13 名、大学院 9 名）

〔本学関係者〕 王玲玲（地域デザイン科学部 助教）、神戸幸（留学生・国際交流室長）、松本晴朗（国際交流企画係長）、石川香緒莉（留学生係長）、五十嵐佳帆（留学生係員）

③場 所：オンライン（Zoom）

④進 行：最初に、キャンパス所在地、学部概要紹介などを行い（10分）、その後に生徒から質疑応答。

⑤質問等

- ・ 留学生が利用できる奨学金制度、本学キャンパス周辺の家賃相場・治安等。
- ・ 志望研究室の担当教員や研究分野の調べ方、EJU 受験科目等、その他入試全般。
- ・ 令和5年度入試のオンライン対応状況、海外からオンライン受験可能か。
- ・ 大学院における英語での講義の対応について。

4.3 JICA 主催留学フェア

国際協力機構（JICA）が主催し、連携する各国機関が運営する留学フェアに2021年度は参加したが、2022年度は諸般の事情により参加しなかった。

4.4 交換留学生のための大学院進学説明会

例年は、本学への交換留学生の本学各研究科への留学を奨励し、その教育・研究の特色や入試内容・日程等に関する情報を提供する目的で、平成23年度から「交換留学生のための大学院進学説明会」の開催している。2022年度は、対象となる来日留学生が少ないことから中止した。

（以上、留学生・国際交流室）



5 日本人学生の海外派遣・留学の推進・支援

5.1 海外留学説明会

グローバル人材の育成が叫ばれている今日、留学生・国際交流センターでは、海外に目を向け、交換留学はもちろん、短期の語学留学などに積極的にチャレンジしようとする学生を育成するため、例年、学生に対する様々な説明会を開催している。

2022年度は、昨年度に引き続き COVID-19 の影響で全ての留学関係説明会をオンラインで実施した。

(1) 交換留学説明会

- ①日 時：令和4年7月21日（木）16：00～17：00
- ②実施形態：オンライン（Zoom）
- ③内 容：1) 交換留学制度に関する各種説明
2) 海外留学と就職について
3) 単位認定制度について
4) 交換留学からの帰国学生による体験報告

(2) 交換留学フェア

- ①日 時：令和4年9月20日（火）および9月22日（木）いずれも14：00～16：00
- ②実施形態：Zoomによるオンライン開催
- ③内 容：交換留学からの帰国留学生による国・地域別体験報告会及び質疑応答

**令和4年度
交換留学説明会**

【日 時】令和4年7月21日（木）
16：00～17：00

【開催方法】オンライン（Zoom）

【内 容】交換留学に関する説明

【予約方法】下記フォーム（またはQRコード）より登録してください。
開催日の前日までに、登録されたアドレス宛にURL等をお送りします。
<https://fores.office.com/r/8RcAxlui2G>

※登録締切：令和4年7月20日（水）13:00
（延長しました！）

【注意事項】当日の映像は録画し、C-Learningに掲載することを予定しています。
予めご了承ください。

途中入退室もOKです！
交換留学に少しでも興味がある方は、ぜひ参加してください。

お問い合わせ先：留学生・国際交流室
（電話：028-649-8166 / メール：exch@go@mba.mitsunomiya-u.ac.jp）

令和4（2022）年度
交換留学フェア（オンライン）のご案内

2021年度留学派遣学生の先輩と、オンラインでお話してみませんか？
交換留学に興味のある方や、応募を考えている方は、ぜひお気軽にご参加ください。

スケジュール	2022年9月20日 （火曜日）	2022年9月22日 （木曜日）
14:00～15:00	①韓国	③イギリス
15:00～16:00	②フランス	④アメリカ

【内 容】派遣学生からの留学報告、質疑応答
【開催方法】オンライン（Zoom）
【申込方法】下記URLからフォームにご登録ください。
<https://forms.office.com/r/GrmyKodV2n>

申請締切：2022年9月19日（月）

※参加を希望する時間帯は、複数選択することができます。
※途中での入退室も可能です。

【問い合わせ先】
留学生・国際交流室（留学生センター4号館1階）
電話番号：028-649-8166
アドレス：exch@go@mba.mitsunomiya-u.ac.jp

（留学生・国際交流室）

5.2 国際インターンシップ

宇都宮大学の「グローバル人材育成プログラム」の一環として、2012年度から、海外の企業の支社や事業所、NGO や教育機関等で就労体験を行う国際インターンシップを実施している。

COVID-19の影響により、2020年度夏期の実施を中止としたが、同年度の春期からオンラインでのインターンシップを実施することとなり、2021年度から2022年度夏期までオンラインでの実施を継続してきた。

本年度は、COVID-19 感染拡大収束により、春期より実渡航によるインターンシップを徐々に再開し、夏期（オンライン）に5名、春期インターンシップ（実渡航）に5名の合計10名をマレーシアと台湾の企業団体、大学へインターン生として派遣することができた（下記「(3) 派遣実績」参照）。

留学生・国際交流センターでは、夏期及び春期の休暇中の約2～4週間の実習に先立ち、体験者の報告をはじめ、国際インターンシップの概要やその手続などの説明を目的とした報告・説明会を以下の通り開催した。また、運営面では留学生・国際交流センター長をグループ長とする「国際インターンシップ・ワーキング・グループ（WG）」（下記「(4)」参照）が中心となり、応募者の面接や選考のほか、各種手続き等への助言指導を行った。今後も引き続き危機管理体制の充実、受入団体等の拡充を図っていくこととしたい。

(1) 令和3年度春期「国際インターンシップ」報告会及び令和4年度夏期 実施概要説明会

- ①日 時：2022年5月25日（水）18：00～19：30
 ②場 所：対面およびオンライン開催（Zoom 使用）
 ③参加者数：学生22名・教職員8名・受入先関係者4名 合計：34名
 ④内 容：

（進行）湯本浩之（留学生・国際交流センター）

1) 開会挨拶：横尾昇剛（留学生・国際交流センター長）

2) 令和3年度春期参加学生報告（3名）

・台北城市科技大学（台湾）：

Doan Nguyen Khoi（国際学部3年）

佐藤美空（国際学部2年）

・Insar Tours & Travel（マレーシア）：

澤田のどか（農学部2年）

3) 受入団体担当者からのコメント

・台北城市科技大学応用外国語学科：藤原真也氏

・Insar Tours & Travel（マレーシア）：

常務取締役 鍋嶋誠一朗氏

4) 令和4年度夏期国際インターンシップ説明：

中道利久（コーディネーター）

5) 閉会挨拶：

吉田一彦（国際学部教授）・大久保達弘（農学部教授）

2021年度春期報告、2022年度夏期募集
国際インターンシップ
参加者募集説明・報告会
 開催日時 2022年5月25日(水)
 18:00～19:30
 会場 峰キャンパスUUプラザ2Fコミュニティフロア
 +オンライン開催 (Zoom)

今春実施のオンライン国際インターンシップ参加学生による報告会と、夏期実施の国際インターンシップの説明会を行います。「リモートワークを体験してみたい」、「海外の仕事を通じて現地の様子も知りたい」など、インターンシップの参加を検討したい方は、ぜひご出席ください。

報告会参加 事前申込
 対面、オンライン参加のどちらもご希望されるか共に、下記アドレスまでご連絡ください。
 uiintern@miya.u.tsunomiya-u.ac.jp
 ※申込締切 5月25日(水) 16時

2022年度夏期オンライン国際インターンシップ概要
 ◆実習期間：2022年7月～8月
 ◆対象：全学部学生、大学院生
 ◆実習受入先(予定)は、次頁のとおり

問合せ先：留学生・国際交流センター
 峰キャンパス24号館4階1号フロア16号モンス
 TEL: 028-649-8179
 Mail: uiintern@miya.u.tsunomiya-u.ac.jp

(2) 令和4年度夏期「国際インターンシップ」報告会及び令和4年度春期実施概要説明会

- ①日 時：2022年11月7日（月）18：00～20：00
 ②場 所：対面およびオンライン開催（Zoom 使用）
 ③参加者数：学生13名・教職員10名・受入先関係者5名 合計：28名
 ④内 容：

（進行）飯塚明子（留学生・国際交流センター）

- 1) 開会挨拶：吉田一彦（国際学部教授）
- 2) 令和4年度夏期国際インターンシップ参加学生報告（5名）
 - ・ヒロキインターナショナル（台湾）：レティ・クエン（地域創生科学研究科1年）・熊倉由樹（農学部2年）・高瀬弥依（国際学部2年）・安藤美海（国際学部2年）
 - ・INSAR Tours & Travel（マレーシア）：仲松亜美（国際学部2年）
- 3) 令和4年度春期国際インターンシップ説明：中道利久（コーディネーター）
- 4) 閉会挨拶：横尾昇剛（留学生・国際交流センター長）

(3) 派遣実績

①令和4年度 夏期国際インターンシップ

	氏名	学部・研究科	学年	実習先企業	実習期間	実習国
1	レティ・クエン	地域創生	M1	ヒロキインターナショナル	8/22～9/9	台湾
2	熊倉 由樹	農学部	2			
3	高瀬 弥依	国際学部	2			
4	安藤 美海	国際学部	2	Insar Tours & Travel	8/9～9/1	マレーシア
5	仲松 亜美	国際学部	2			

②令和3年度 春期国際インターンシップ

	氏名	学部・研究科	学年	実習先企業	実習期間	実習国
1	鈴木 萌生	農学部	1	Insar Tours & Travel	2/25～3/10	マレーシア
2	レティ・クエン	地域創生	M1	台北城市科技大学	3/7～3/25	台湾
3	岡田 杏樹菜	国際学部	3			
4	伊藤 翼	国際学部	3	Lodge International School	3/13～3/28	マレーシア
5	堤 大愛	国際学部	2			

(4) 国際インターンシップ・ワーキング・グループ (WG) の構成 (令和4年度)

所属	氏名	所属部局	職名
グループ長	横尾 昇剛	留学生・国際交流センター	センター長（兼地域デザイン科学部教授）
グループ員	山岡 暁	地域デザイン科学部	教授
	吉田 一彦	国際学部	教授
	渡邊 信一	ものづくり創成工学センター	准教授
	天沼 実	共同教育学部	教授
	大久保達弘	農学部	准教授
	湯本 浩之	留学生・国際交流センター	教授・副センター長
	飯塚 明子	留学生・国際交流センター	助教
	中道 利久	留学生・国際交流センター	コーディネーター
事務局	神戸 幸	留学生・国際交流センター	室長心得

(中道)

5.3 海外渡航前危機管理オリエンテーション

留学生・国際交流センターでは、海外留学の推進を行うと同時に、複雑化する国際情勢や自然災害などから生じる危機について、学生一人一人の意識の涵養を図るため、例年、「海外渡航前危機管理オリエンテーション」を開催している。これは、交換留学をはじめ、海外英語研修や国際インターンシップ等の大学主催プログラムで海外留学する学生に参加を義務付けるとともに、夏休みなど長期休業期間を利用して自ら海外に渡航する学生も対象としたものである。

2022年度は、7月と1月の計2回実施した。

(1) 2022年度第1回海外渡航前危機管理オリエンテーション

- ①日 時：2022年7月14日（木）16：00～17：20
- ②実施形態：オンライン（Zoom）
- ③内 容：1) 開会挨拶：横尾昇剛（留学生・国際交流センター長）
2) 外務省ビデオ視聴「なぜ君がねらわれるのか」
3) 講話「自分の安全は自分で守るために」：湯本浩之（留学生・国際交流センター）
4) 海外渡航・滞在時の諸注意と各種手続きについて：五十嵐佳帆（留学生・国際交流室）
5) 質疑応答（留学生・国際交流室）

(2) 2022年度第2回海外渡航前危機管理オリエンテーション

- ①日 時：2023年1月26日（木）14：20～15：50
- ②実施形態：オンライン（Zoom）
- ③内 容：(1)と同様

（留学生／国際交流室）

令和4年度
(2022年度)
夏季

海外渡航前
危機管理オリエンテーション

海外渡航を控える学生および教職員に対して、渡航時に想定される危機・対応法等についての説明を行います。
2022年中に海外渡航を予定している方は、ぜひご参加ください！

日時
令和4年7月14日（木） 16:00～17:20

開催方法
オンライン（Zoom）

予約方法
下記フォーム（またはQRコード）より登録してください。
開催日の前日までに、登録されたアドレス宛にURL等
をお送りします。
<https://forms.office.com/r/6KPPJW7JSp>

※登録締切：令和4年7月8日（金）

（注意）
当日の映像は、録画してe-Learning上へ掲載
予定です。予めご了承ください。

お問い合わせ先：留学生・国際交流室
（電話：029-649-6100 / メール：sokurango@nips.utsunomiya.ac.jp）

5.4 海外英語研修

本年度は、マレーシアのサラワク大学との海外英語研修を現地渡航およびオンラインで実施した。

オーストラリアのサザンクロス大学とカナダのカピラノ大学との英語研修は、COVID-19の影響により昨年度に引き続き中止した。

(1) マレーシア・サラワク大学

宇都宮大学が大学間交流協定（2017年度締結）を結んでいるマレーシアのサラワク大学（UNIMAS）の協力を得て、2018年度から毎年2月に英語研修プログラムを実施している。本研修は、授業による英語能力の向上だけでなく、多民族国家であるマレーシアの自然環境豊かなボルネオ島サラワク州において、英語運用能力の高いサラワク大学生のバディと共に過ごす寮生活・課外活動を通じて、多文化共生や生物多様性などのテーマ理解を深めることも目的としたプログラムとなっている。

今年度はコロナが緩和したことにより、海外渡航に伴う渡航研修プログラムおよびオンラインプログラムの両方を開催した。



☆海外渡航研修プログラム

1) 実施概要

①研修先：国立マレーシア・サラワク大学

②参加学生数：学部生 30 名

<内訳>学部：地デザ 3 名／国際 13 名／共同教育 6 名／工学 1 名／農学 6 名

学年：1 年生 11 名／2 年生 11 名／3 年生 8 名／4 年生 0 名

③関係教員：

大久保達弘（農学部）／出羽尚（国際学部）／天沼実・山野有紀・五十嵐奈央（共同教育学部）／高橋俊守（地域デザイン科学部）／飯塚明子（留学生・国際交流センター）

④実施スケジュール

募集説明会：2022 年 10 月 25 日（火）

募集期間：10 月 25 日（火）～11 月 14 日（月）

参加者選考・決定：12 月上旬

第 1 回事前研修：12 月 13 日（火）

講話「プログラム紹介」大久保達弘（農学部）

参加学生の自己紹介

第 2 回事前研修：1 月 25 日（水）講話「Introduction to English Pronunciation for UU Students」

Souba Rethinasamy (UNIMAS)

第 3 回事前研修：2023 年 2 月 10 日（金）

講話「渡航前のスケジュール、持ち物、水際対策等の説明・再確認」

飯塚明子（留学生・国際交流センター）

講話「English Pronunciation Quiz and Closing ceremonial preparation meeting」

Souba Rethinasamy (UNIMAS)

研修期間：2 月 21 日（火）～3 月 9 日（木）

研修報告会：3 月 27 日（月）



英語研修の様子

2) 研修概要

①英語研修：

サラワク大学の英語教育専門の教員による英語研修を実施した（9：30～15：00）。SDGs を意識した内容を取り入れ、宇大生による SDGs に関連した発表があった。クロージングセレモニーは、日本人の学生がマレーシアの民族衣装を着て、宇大で着付け研修に参加した学生により、マレーシア人の学生に浴衣体験をさせた。また、学生による詩の朗読、歌、ダンスの披露などがあった。

② Social Program と Activity with buddies（課外プログラム）：

サラワクの歴史や文化、自然環境を学び、バディと国際交流を推進するため、Social Program（15：00～16：30）と Activity with buddies を実施。サラワク大学の概要、小学校訪問、研究室訪問、市内散策、文化村・サラワク博物館の見学や伝統衣装の試着、スポーツイベントなどを行った。



マーケットを建学する宇大生とバディ

☆オンライン研修プログラム

1) 実施概要

①研修先：マレーシア・サラワク大学

②参加学生数： 12名

＜内訳＞学部：国際10名／教育2名

学年：1年生2名／2年生8名／3年生2名／
4年生0名

③関係教員：

出羽 尚（国際学部）／大久保達弘（農学部）／天沼
実・山野有紀（共同教育学部）／高橋俊守（地域デ
ザイン科学部）／堀尾佳以（工学部）／湯本浩之（留
学生・国際交流センター）／飯塚明子（留学生・国際
交流センター）

④プログラム実施スケジュール

募集説明会： 10月25日（火）

募集期間：10月25日（火）～11月14日（月）

参加者選考・決定：12月上旬

第1回事前研修：12月13日（火）

講話1「プログラム紹介」

大久保達弘（農学部）

講話2「オンライン研修参加のポイント」

出羽尚（国際学部）

学生の自己紹介

第2回事前研修：2023年1月25日（水）

講話「Introduction to English Pronunciation for UU Students」

Souba Rethinasamy（UNIMAS）

第3回事前研修：2月10日（金）

講話1「SDGsの視点からサラワクをみる」

湯本浩之（留学生・国際交流センター）

講話2「サラワクの地理、民族・言語・宗教、生き物、熱帯林について学ぼう」

大久保達弘（農学部）

第4回事前研修：3月3日（金）

講話「What is Malaysia? From a Malaysian living in Japan」

Emily Choong（新潟市教育委員会）

研修期間：3月13日（月）～3月18日（土）

研修報告会：3月27日（月）

2) 研修概要

①オンライン英語研修：

サラワク大学言語コミュニケーション学部の英語の
専門教員複数名による、様々なオンラインツールを用
いた集中英語研修を実施（9：30～15：00）。SDGsを
意識した内容を取り入れ、最終日には宇大生による
SDGsに関連した発表があった。クロージングセレモ



現地の小学校の見学



博物館で民族衣装を試着する宇大生



合同報告会での学生発表

ニーは、Souba Rethinasamy 教員 (UNIMAS) によるスピーチから始まり、学生による詩や歌の朗読、歌の披露などがあった。

今年度のオンライン英語研修は、コロナ禍においても学生同士が交流できる機会を作るため、第1回事前研修とクロージングセレモニーは対面で授業を行い、マレーシアとはオンラインで繋がるハイブリッド型で行った。

②オンライン Social Program と Activity with buddies (課外プログラム):

サラワクの歴史や文化、自然環境を学び、バディと国際交流を推進するため、Social Program (15:00～16:30) と Activity with buddies を実施した。サラワク大学の概要、市内散策、伝統衣装、伝統ダンスや食物、マレーシア語の歌の紹介などを行った。また、宇大生も日本とマレーシアの文化相違点について議論し、日本語の歌を披露など、国際的な文化交流を行った。



☆合同研修報告会:

海外渡航研修プログラムおよびオンライン研修プログラムの合同報告会をオンラインで実施し、宇都宮大学とサラワク大学の教職員や学生など約60名が参加した。まず、本学の池田幸学長およびサラワク大学言語・コミュニケーション学部の Prof. Dr. Ambigapathy Pandian 学部長 (Dean of Faculty of Language and Communication) が開会の挨拶をした。その後、出羽教員が両プログラムの開催への振り返りをした後に、学生はSDGsに関連したグループプレゼンテーションを行い、各自でプレゼン・研修の振り返りについてコメントをした。

グループプレゼンテーションのテーマは以下の通りである。

<オンライン研修参加者>

- ・ Group 1: What can we do for global warming?
- ・ Group 2: The problem of marine plastic
- ・ Group 3: The impact of climate change in Africa

<渡航研修参加者>

- ・ Group 4: Friendship of five cats
- ・ Group 5: For a livable earth-What we can do-
- ・ Group 6: What we learned during Edu-Tour 2023 and why we made the story "mermaid"
- ・ Group 7: The gone colors
- ・ Group 8: Thinking about SDG2 while enjoying the story
- ・ Group 9: Two boys-Do you want to study?



学生発表後の集合写真

以上のプレゼンテーションをもとに、サラワク大学の教員や学生、宇都宮大学教員が質疑応答やフィードバックのコメントをして、最後に大久保達弘 (農学部) が閉会の挨拶を行った。

研修期間中、サラワク大学の学生がバディとして約30名参加し、渡航研修プログラムとオンライン研修プログラムの英語の授業、Social Program と Activity with buddies、最終プレゼンテーションの作成をサポートした。

学生への事後アンケート調査により、渡航研修に参加した学生からは「初めて海外に行く人に非常におすすめのプログラム」、「英語でのコミュニケーションが積極的になった」、「現地に実際に行って、生活したことで異文化理解が深まり、視野が広がった」、「人生で一番充実した時間を過ごすことができた」、「も

う一度参加したい」など、高い評価が得られた。

また、オンライン研修に参加した学生からは「とても貴重な研修になった。次はぜひ現地で研修を受けたい」、「オンラインでもこれだけの達成感が味わえるのは素晴らしいことだ」、「とても有意義で楽しい研修だった」、「実際にマレーシアを訪れてみたいと強く感じた」など、半分以上の参加者から来年度の渡航研修へ参加したい意向が表された。

(飯塚)

(2) オーストラリア・サザンクロス大学

オーストラリアのニューサウスウェールズ州にあるサザンクロス大学が提供する英語研修プログラムを毎年8月後半に実施している。本研修では、英語の運用能力向上を主目的とした集中授業、オーストラリアの自然や文化に触れられるような課外活動を含む。加えて、参加学生は滞在期間を通じてオーストラリアの家庭にホームステイをし、現地の生活に触れる機会を提供している。

昨年度に引き続き、今年度も COVID-19 拡大に伴い渡航が困難な状況が続いており、入国制限措置の緩和がみられず、募集説明会と参加者募集を行う5月時点で海外に渡航できる目途が立たなかったため、説明会及び参加募集は行わず中止した。

(3) カナダ・カピラノ大学

交流協定締結に向けて交渉中のカナダ、ブリティッシュ・コロンビア州立カピラノ大学にて、2019年度から英語研修プログラムを実施している。このプログラムは、他の海外英語研修参加者を含む中級以上の学生を対象として生まれ、バンクーバー都市圏の先住民地域や日系社会を含む多文化主義社会と大自然の利を生かしたカリキュラムになっている。学術目的の英語運用能力の獲得を目的とし、コースワークとフィールドトリップを組み合わせている点が特徴である。

昨年度に引き続き、今年度も COVID-19 の影響により、募集説明会と参加者募集を行う10月時点で海外に渡航できる目途が立たなかったため、説明会及び参加募集は行わず中止した。

5. 5 海外渡航危機管理サービス

グローバル人材育成の観点から、積極的に学生の海外留学を推進する一方、海外ではテロ、事件・事故、災害など各種のリスクが存在する。このことから、留学生・国際交流センターでは、これらのリスクに対応するため海外渡航危機管理サービスを導入した。このことにより、現地にいる学生へ危険情報の連絡や災害などが発生した際の安否確認ができるシステムを活用し、現地にて学生が困ったことが発生した時には24時間電話相談ができるサービスを受けられる体制を導入し、安心して海外留学ができる体制を構築している。

(以上、留学生・国際交流室)



6 各種協議会等への参加

本年度は以下のような各種協議会に教職員を派遣し、国際交流や留学生支援などに関する経験交流や情報収集に努めた。

6.1 令和4年度全国国立大学法人留学生センター長及び留学生課長等合同会議

(1) 実施概要

- ①開催形式：Zoomによるオンライン形式
- ②資料発出：令和4年11月30日（水）13：30～16：05
- ③主催大学：東京医科歯科大学

(2) 次第

開会挨拶

文部科学省事業説明（質疑応答含む）文部科学省高等教育局

日本学生支援機構事業説明（質疑応答含む）日本学生支援機構留学生事業計画課

各大学における取り組み例の紹介

事務連絡・次回当番校（鹿児島大学）挨拶

閉会挨拶

(3) 各国立大学法人からの承合事項一覧

- 1 北見工業大学：2020年2月（コロナ禍開始）以降の留学生数の減少割合及び留学生数増加のための方法について
- 2 上越教育大学：外国人留学生の新規入国後、ホテル等の宿泊施設で健康観察のための待機期間を設けているか。
- 3 上越教育大学：外国人留学生の入学時、宿舎への入居手続きや日用品の買い出し等について、各大学でどのように対応しているか。
- 4 島根大学：海外短期研修の現地対応マニュアルについて
- 5 お茶の水女子大学：コロナ禍における私費外国人研究生の学籍処理について
- 6 岩手大学：海外留学支援制度（大学院学位取得型）の卒業生への対応について
- 7 高知大学：「言語で」さまざまな学びを深め、異文化コミュニケーション能力育成を図る特徴あるプログラムについて
- 8 室蘭工業大学：複数名が参加する海外派遣に関する再開状況及び派遣可否の判断基準について
- 9 東京学芸大学：海外派遣プログラムについて、長期のプログラムは再開しているところですが、大学が主催する1～数週間程度の短期派遣プログラムの再開の状況や特段のサポート（例えば教職員を同行させる、事前のオリエンテーションを行うなど）がございましたらご教示ください。
- 10 大阪教育大学：派遣留学生（大学間協定に基づく交換留学プログラム）の学内募集のスケジュール及び回数について
- 11 三重大学：留学経験学生の活用について、交換留学や海外研修等を経験した学生が、留学希望者にアドバイスしたり、相談に乗ってもらったり、国際交流や留学派遣の促進に資するイベントを企画・開催するような事例・取り組みがあればお伺いしたい。
- 12 東京医科歯科大学3か月未満の留学期間となる外国人留学生への奨学金支給について
- 13 北海道大学：COIL型授業のカリキュラム中での位置付けについて

- 14 千葉大学：特別聴講学生の履修登録について、一般の学生と同様に学生自身がシステムを使用している事例があれば、ご教示願いたい。
- 15 千葉大学：聴覚障がいのある留学生に対して、授業（講義・演習）および日常生活においてどのようなサポートがなされているか、事例をご教示願いたい。
- 16 大阪教育大学：留学生の緊急連絡先の収集や学習に係る情報提供について
- 17 佐賀大学：留学生寮のインターネット環境について
- 18 三重大学：留学生宿舎（国際交流会館）を有する大学に対し、入居者への光熱水費（電気、水道、ガス）の徴収方法等について、お伺いしたい。・寄宿料とは別に光熱水費を請求しているか、あるいは光熱水費は寄宿料に含まれているか・光熱水費を定額で徴収している事例があるか、またその場合、どのように料金を設定しているか。・共有スペースに係る光熱水費は入居者負担か、大学負担か・その他、寄宿料や光熱水費の請求及び徴収にあたり、業務効率化のために工夫していることなどがあれば共有いただきたい。
- 19 お茶の水女子大学：留学生の国民年金加入・保険料支払免除申請手続きについて
- 20 琉球大学：都道府県留学生交流推進協議会等における交流事業の実施状況について
- 21 金沢大学：外国人留学生受入・支援等で業務削減や効率化につながった取組について
- 22 金沢大学：借上げ宿舎について
- 23 広島大学：国際協力機構（JICA）の事業依頼について
- 24 広島大学：アフガニスタンやミャンマー、ウクライナ等の人道的支援について
- 25 熊本大学：【国際交流協定に基づく学生受入れについて】1. 協定校に在籍する二重国籍（日本籍と外国籍）の学生を協定に基づいて受け入れるか。受け入れる場合、留学生を対象とするチューターや寮（留学生寮）への入居等について、留学生と同等に扱うか。2. 交換留学生の受入プログラムに係る規則や申し合わせがあればご恵与いただきたい。
- 26 埼玉大学：外国人留学生用の宿舎の有無、シェアルームの有無、シェアルーム居住者に提示する明文化したルール等
- 27 埼玉大学：交換留学生の受入れ手続き等事務のシステム化
- 28 名古屋大学：外国人留学生が住民登録をする際の窓口混雑緩和への対応策について
- 29 名古屋大学：外国人留学生の銀行口座の開設支援について
- 30 福井大学：新規渡日の外国人留学生が民間アパート等へ入居する際、日本の住所が記載された在留カードが必要な場合の対応方法及び賃貸契約等における受入大学の介入について
- 31 横浜国立大学：賃貸契約以外でも、留学生の身元保証人（たとえば、奨学金の申請、手術の同意書など）が求められるケースがあるが、誰が身元保証人となっているか。大学が機関として保証したケースはあるか。
- 32 横浜国立大学：在留関係業務について、行政書士事務所などの代行サービスを受けているか。その場合、具体的に、どこまでを大学が担当し、どこからを代行してもらっているか。
- 33 山形大学 留学生への情報発信の方法について：留学生向けのプラットフォームなどを作っているのか、直接メールをして情報を届けているのか、大学 HP を見るよう指導しているのか等教えていただきたい。
- 34 九州大学：留学生に対して宿舎をアレンジしていますか？している場合、どの程度の割合で提供しますか？していない場合、留学生からの苦情はないでしょうか？
- 35 東京医科歯科大学：留学生用の宿舎を確保するための工夫はしているか。また、民間の不動産を留学生用宿舎としている場合には、どのようにして物件を探したか。



6.2 令和4年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会

(1) 実施概要

- ①開催形式：オンライン（Zoom）
- ②日 時：令和4年11月30日（水）09：40～12：00
- ③主催大学：熊本大学

(2) テーマ・次第

- ①テーマ「いま大学に求められる国際戦略とは」
- ②次 第
 - 開会挨拶
 - 「国際化を見据えた政策展開について」文部科学省大臣官房国際課
 - 「科学技術の国際展開について」科学技術・学術政策局参事官（国際戦略担当）付
 - 「国際教育交流担当職員長期研修プログラム（LEAP）について」文部科学省大臣官房国際課
 - 国立大学における取り組み例の紹介（広島大学）
 - 意見交換「全国国立大学法人留学生センター長及び留学生課長等合同会議との統合について」
 - 事務連絡
 - 次回当番校挨拶（愛媛大学）
 - 閉会挨拶

6.3 令和4年度国立大学法人留学生センター等留学生指導担当研究協議会

(1) 実施概要

- ①日 時：令和4年7月4日（月）13：00～15：30
- ②開催方法：オンライン（Zoom）
- ③主催大学：東京大学グローバルキャンパス推進本部 国際化教育支援室
- ④本学参加者：堀尾佳以（工学部講師）ほか。

(2) プログラム

- 開会挨拶
- 第Ⅰ部 基調講演「留学生受け入れ政策をめぐる近年の動向」
 - 山田研一（文部科学省高等教育局学生・留学生課課長補佐）
- 第Ⅱ部「留学生受け入れ戦略の国際的動向と日本の状況：今後に向けて」
 - 米澤彰純（東北大学総長特別補佐（国際戦略担当）／国際戦略室副室長・教授）
- 閉会

6.4 2022 年度第 2 回国立大学法人留学生指導研究協議会 (兼：第 56 回大阪大学留学生教育・支援協議会)

(1) 実施概要

- ①日 時：令和 5 年 2 月 3 日（金）13：00～7：30（オンライン情報交換会含む）
- ②開催場所：大阪大学吹田キャンパス銀杏会館 3 階ホール
- ③主催大学：大阪大学国際教育交流センター
- ④テ ー マ：「コロナ禍 2 年目の留学生受け入れ体制と具体的取組」
- ⑤本学参加者：堀尾佳以（工学部講師）※ オンライン参加

(2) プログラム

I. 留学生受入れに関する施策

1) 説明（13：10～13：40）

「留学生交流に係る最新状況と令和 5 年度関連予算案について」

山田研一（文部科学省高等教育局参事官（国際担当）付留学生交流室室長補佐）

2) 質疑応答（13：40-13：50）

II・III は対面参加者のみ対象のため省略

（以上、留学生・国際交流室）

6.5 令和 4 年度日本語・日本文化研修留学生問題に関する検討会議

(1) 実施概要

- ①日 時：令和 4 年 11 月 18 日（金）13：30～17：00
- ②場 所：大阪大学箕面新キャンパス・大阪外国語大学記念ホール
- ③主催大学：大阪大学日本語日本文化教育センター
- ④本学参加者：横尾昇剛（留学生・国際交流センター長）※ オンライン参加。

(2) プログラム（敬称略）

開催大学挨拶：藤田清士（大阪大学総長補佐兼グローバルイニシアティブ副機構長）

議事

「大学等における国際交流に関する現状と取組」

横山光弘（文部科学省高等教育局参事官付留学生交流室専門官）

小川武司（文部科学省高等教育局参事官付留学生交流室専門職）

拠点事業紹介「日本語・日本文化教育研修共同利用拠点事業」

加藤均・松岡里奈（大阪大学日本語日本文化教育センター）

報告 1

①「オンラインを使った日本語・日本文化研修留学生教育の工夫」

池田佳子（関西大学国際部）

②「日本文化学系統の授業の内容理解を支える実践」

松岡里奈・笹川史絵（大阪大学日本語日本文化教育センター）

報告 2

- ①「日本語・日本文化研修生の学びの広がり：北海道大学の場合」
小林由子（北海道大学高等教育推進機構国際教育研究部日本語教育ユニット）
- ②「日研究生教育におけるウクライナ人学生支援」
加藤均・松村薫子（大阪大学日本語日本文化教育センター）

閉会

情報交換会

(横尾)

6. 6 全国大学ジョイント・ディグリープログラム協議会

2021年度からジョイント・ディグリー・プログラム（JDP）を設置する大学間の情報交換や文科省との意見交換の場として、全国大学ジョイント・ディグリープログラム協議会（略称：JDP協議会）の設立が岐阜大学や名古屋大学が中心となって準備されてきた。また、将来的にJDP設置を検討する大学は、同協議会へのオブザーバー参加が認められたため、2022年3月に開催された同協議会設立のための総会準備会議に、本学もオブザーバー大学として参加することとした。

2022年度は、10月に開催された総会にオブザーバー大学として参加した。

(1) 実施概要

- ①日 時：令和4年10月25日（火）15：00～
- ②場 所：オンライン会議（Zoom）
- ③主 催：東海国立大学機構
- ④本学参加者：湯本浩之（留学生・国際交流センター）

(2) プログラム

- ①講演「ジョイント・ディグリー 101」
武田久仁子（文部科学省高等教育局参事官（国際担当）付専門官）
- ②協議 1) JDP用にあたっての問題点及び文部科学省への要望事項について
2) 国際連携専攻に係る専任教員数について
3) ジョイント・ディグリープログラム修了生の進路状況調査について
- ③報告 1) ホームページの開設について
2) JDP関連のイベントの開催について
- ④発表「各大学のJDPの取り組み」
発表大学：名古屋大学・筑波大学・立命館大学・広島大学・山口大学・東京医科歯科大学

(湯本)

III 資 料

1 留学生在籍状況

(1) 留学生種別在籍者数 (2022年5月現在)

	種 別	所 属	人 数	小 計
正規生	学 部	地域デザイン科学部	7	53
		国際学部	23	
		教育学部・共同教育学部	2	
		工学部	12	
		農学部	9	
	大学院	地域創生科学研究科	122	142
		国際学研究科	3	
		工学研究科	6	
連合農学研究科		11		
非正規生	研究生	地域デザイン科学部	4	31
		国際学部	8	
		共同教育学部	15	
		工学部	0	
		農学部	3	
		地域創生科学研究科	1	
		連合農学研究科	0	
		留学生・国際交流センター	0	
	特別聴講学生 (協定校との交換留学生)	14	14	
	特別研究学生	0	0	
	国費研究留学生 (非正規生)	1	1	
	日本語・日本文化研修留学生	4	4	
	教員研修留学生	0	0	
	合 計			245

(2) 国・地域別留学生数 (国・地域数：20カ国・地域) ※ 香港を含む

国 名	人 数	国 名	人 数	国 名	人 数
中国	162	ガーナ	2	ペルー	1
マレーシア	28	台湾	2	ウクライナ	1
韓国	12	ウズベキスタン	1	ドイツ	1
モンゴル	8	エジプト	1	フランス	1
バングラデシュ	5	スリランカ	1	ロシア	1
ベトナム	5	タイ	1	イギリス	1
インドネシア	4	ブラジル	1	ネパール	1
カンボジア	4	メキシコ	1		

2 国際交流協定校との受入・派遣状況一覧

(1) 大学間交流協定校との学生派遣・受入実績

大 学 名	国(地域)名	区分	年度				
			H30	H31	R2	R3	R4
浙江工業大学	中国	派遣					
カセサート大学	タイ	派遣	2	2			3
復旦大学	中国	派遣					
ビクトリア大学	オーストラリア	派遣 協定校私費					
祥明大学校	韓国	派遣	1	4		1	3
ノーザン・プリティッシュ・コロンビア大学	カナダ	派遣 協定校私費	2 1	1 1	1		
電子科技大学	中国	派遣					
エアランゲン大学	ドイツ	派遣	3	3	1※		4
浙江師範大学	中国	派遣					
浙江大学	中国	派遣	2	3			
内蒙古農業大学	中国	派遣					
ボゴール農科大学	インドネシア	派遣					
寧波大学	中国	派遣		3			
国立台湾師範大学	台湾	派遣 協定校私費	2	2	2※	2※	2
香港大学	中国	派遣		1			
国立政治大学	台湾	派遣	1	1	2※		2
パラツキー大学	チェコ	派遣	2	2		1	2
モンゴル人文大学	モンゴル	派遣	1				
ダッカ大学	バングラデシュ	派遣					
モンゴル生命科技大学	モンゴル	派遣	1				
蓮庵大学	韓国	派遣					
ノースダコタ大学	アメリカ	派遣 協定校私費					
オルレアン大学	フランス	派遣	1	2		2	1
アジア工科大学	タイ	派遣					
全北大学校	韓国	派遣				1	
東フィンランド大学	フィンランド	派遣					
慶北大学校	韓国	派遣		2			
トライン大学	アメリカ	派遣	2	2			2
アイルランド国立大学ダブリン校	アイルランド	派遣 ダブルディグリー					
王立プノンベン大学	カンボジア	派遣	3	3			1
ガジャマダ大学	インドネシア	派遣					
ヴインセンス大学	アメリカ	派遣 協定校私費	2	2 1		2	1 3
ポンティフィシアカトリック大学	バルー	派遣	1	1			1
サラワク大学	マレーシア	派遣 協定校私費			3 1		3※
ダナン科学技術大学	ベトナム	派遣					
ペラデニヤ大学	スリランカ	派遣	1				
ガーナ大学	ガーナ	派遣	1	1		3	8
パジャジャラン大学	インドネシア	派遣					
国立中興大学	台湾	派遣					
アディスアベバ大学	エチオピア	派遣					
ネルソンマンデラアフリカ科学技術大学院大学	タンザニア	派遣					
ダルエスサラーム大学	タンザニア	派遣					
ジョモ・ケニヤツタ農工大学	ケニア	派遣					
合 計			26	40	5	15	36

大 学 名	国(地域)名	区分	年度				
			H30	H31	R2	R3	R4
浙江工業大学	中国	受入	1				
カセサート大学	タイ	受入	4	2			2
復旦大学	中国	受入					
ビクトリア大学	オーストラリア	受入					

祥明大学校	韓国	受入	4	4			3
ノーザン・プリティッシュ・コロンビア大学	カナダ	受入					
電子科技大学	中国	受入	2	1			
エアランゲン大学	ドイツ	受入		1			1
浙江師範大学	中国	受入	3	3			
浙江大学	中国	受入	2	3			
内蒙古農業大学	中国	受入					
ボゴール農科大学	インドネシア	受入					
寧波大学	中国	受入	4	4		3※	4
国立台湾師範大学	台湾	受入	4	3			2
香港大学	中国	受入	1	2			1
国立政治大学	台湾	受入	1	1			1
パラツキー大学	チェコ	受入	1	1			2
モンゴル人文大学	モンゴル	受入					
ダッカ大学	バングラデシュ	受入					1
モンゴル生命科技大学	モンゴル	受入	1				
蓮庵大学	韓国	受入	3				
ノースダコタ大学	アメリカ	受入	1				
オルレアン大学	フランス	受入					2
アジア工科大学	タイ	受入					
全北大学校	韓国	受入	3	3			3
東フィンランド大学	フィンランド	受入					
慶北大学校	韓国	受入		2			1
トライン大学	アメリカ	受入					
アイルランド国立大学ダブリン校	アイルランド	受入					
王立ブノンベン大学	カンボジア	受入	3	3			3
ガジャマダ大学	インドネシア	受入					
ヴインセンス大学	アメリカ	受入					1
ポンティフィシアカトリック大学	ペルー	受入					
サラワク大学	マレーシア	受入					
ダナン科学技術大学	ベトナム	受入					1
ペラデニヤ大学	スリランカ	受入					
ガーナ大学	ガーナ	受入	1				1
パジャジャラン大学	インドネシア	受入					1
国立中興大学	台湾	受入					
アディスマババ大学	アフリカ	受入					1
ネルソンマンデラアフリカ科学技術大学院大学	アフリカ	受入					1
ダルエスサラーム大学	タンザニア	受入					1
ジョモ・ケニヤッタ農工大学	ケニア	受入					
合 計			36	32	0	3	33

注 ※は、オンラインで実施。

(2) 部局間交流協定校との学生派遣・受入実績

大 学 名	国(地域)名	本学の締結部局	区分	年度				
				H30	R1	R2	R3	R4
国立暨南国際大学(人文学院)	台湾	国際学部	派遣					
東華大学	中国	工学部	派遣					
龍華科技大学	台湾	工学部	派遣					
釜慶大学校	韓国	国際学部	派遣	1	1			1
イルクーツク国立大学	ロシア	国際学部	派遣		2			
キングモンクット工科大学トンブリー校	タイ	農学研究科	派遣					
齊齊哈爾大学	中国	国際学部	派遣					
ダマスカス大学	シリア	国際学部	派遣					
華南農業大学	中国	国際学部	派遣					
セントラル・ランカシャー大学	イギリス	国際学部	派遣	3	2		1	3
国立台北大学	台湾	国際学部	派遣					1
コリマ大学	メキシコ	国際学部	派遣	2				
遼寧科技大学	中国	工学部	派遣					
ハノイ大学	ベトナム	国際学部	派遣	2	2			
			協定校私費					
トリア大学	ドイツ	国際学部	派遣	2	2			
華東理工大学	中国	工学部	派遣					

国立暨南国際大学(教育学院)	台湾	国際学部	派遣					
ペラデニヤ大学	スリランカ	国際学部	派遣	1				
ガーナ大学	ガーナ	農学部	派遣					
ブルサ工科大学	トルコ	農学部	派遣					
東フィンランド大学	フィンランド	工学研究科	ダブルディグリー					
ランブマンクラット大学	インドネシア	農学部	派遣					
カンボジア王立農業大学	カンボジア	農学部	派遣					
トリサクティ大学	インドネシア	地域デザイン科学部	派遣					
ラオス国立大学	ラオス	農学部	派遣					
ベトナム国家農業大学	ベトナム	農学部	派遣					
モンゴル科学技術大学	モンゴル	農学部	派遣					
タマサート大学	タイ	国際学部	派遣					
ノアカリ科学技術大学	バングラデシュ	工学部・工学研究科	派遣					
上海交通大学	中国	工学部・工学研究科・地域創生科学研究科	派遣					
コンケン大学	タイ	農学部	派遣					
ブリュッセル自由大学	ベルギー	国際学部・地域創生科学研究科	派遣					
合 計				8	9	0	1	5

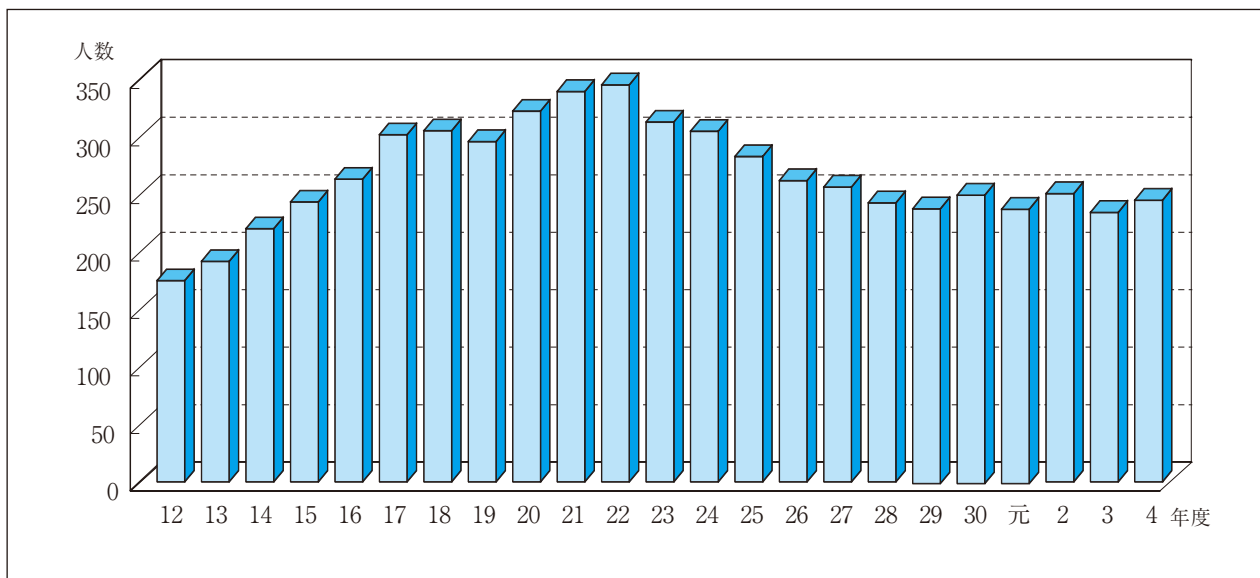
大 学 名	国(地域)名	本学の締結部局	区分	年度				
				H29	H30	H31	R2	R3
国立暨南国際大学(人文学院)	台湾	国際学部	受入	2				2
東華大学	中国	工学部	受入					
龍華科技大学	台湾	工学部	受入	3	3	1※	2※	
釜慶大学校	韓国	国際学部	受入	2	1			
イルクーツク国立大学	ロシア	国際学部	受入		4			2 1※
キングモンクット工科大学トンブリー校	タイ	農学研究科	受入					
斉齊哈爾大学	中国	国際学部	受入	2	2	2※	2※	2
ダマスカス大学	シリア	国際学部	受入					
華南農業大学	中国	国際学部	受入					
セントラル・ランカシャー大学	イギリス	国際学部	受入	3				1
国立台北大学	台湾	国際学部	受入	1				
コリマ大学	メキシコ	国際学部	受入	2				
遼寧科技大学	中国	工学部	受入	1				
ハノイ大学	ベトナム	国際学部	受入	2	2		1※	1
トリア大学	ドイツ	国際学部	受入	2	2			3
華東理工大学	中国	工学部	受入					
国立暨南国際大学(教育学院)	台湾	国際学部	受入	1	2			1
ペラデニヤ大学	スリランカ	国際学部	受入					
ガーナ大学	ガーナ	農学部	受入					
ブルサ工科大学	トルコ	農学部	受入					
東フィンランド大学	フィンランド	工学研究科	受入					
ランブマンクラット大学	インドネシア	農学部	受入		1			
カンボジア王立農業大学	カンボジア	農学部	受入					1
トリサクティ大学	インドネシア	地域デザイン科学部	受入					
ラオス国立大学	ラオス	農学部	受入					
ベトナム国家農業大学	ベトナム	農学部	受入					
モンゴル科学技術大学	モンゴル	農学部	受入					
タマサート大学	タイ	国際学部	受入				1	
ノアカリ科学技術大学	バングラデシュ	工学部・工学研究科	受入					
上海交通大学	中国	工学部・工学研究科・地域創生科学研究科	受入		1			
コンケン大学	タイ	農学部	受入					
ブリュッセル自由大学	ベルギー	国際学部・地域創生科学研究科	受入					
合 計				21	18	4	5	14

注 ※は、オンラインで実施。



(3) 留学生数の推移

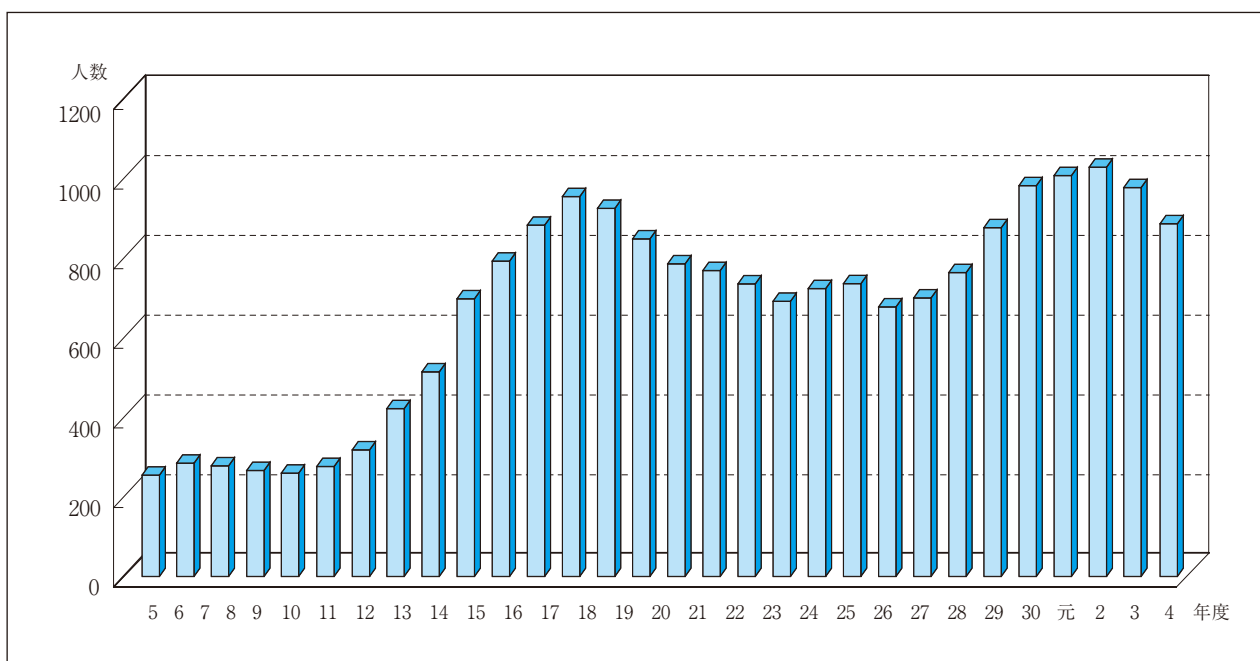
[各年5月1日現在]



年度	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2	3	4
人数	176	193	221	244	264	303	306	295	322	340	345	313	305	284	263	257	244	237	249	244	260	248	245

(4) 栃木県内高等教育機関に在籍の外国人留学生数の推移

[各年5月1日現在]



年度	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2	3	4
人数	256	286	278	268	263	276	318	422	518	697	795	884	956	928	846	788	768	737	693	722	739	677	703	767	877	980	1004	1030	979	887

3 留学生・国際交流センターの発行者

本年度は、以下の資料や報告書などを発行した。

- 1) 『令和 4 年度日本語科目授業案内 (Course Descriptions)』 (2022 年 4 月)
- 2) 『留学生・国際交流センター年報 2021 年度』 (2022 年 11 月)
- 3) 『2021-2022 年度日本語・日本文化研修留学生研修論文集』 (2023 年 1 月)



4 留学生・国際交流センターのウェブサイトのリニューアル

当センターのウェブサイト (URL : <https://intl.lutsunomiya-u.ac.jp/>) を 2022 年 12 月 21 日にリニューアルした。



宇都宮大学
留学生・国際交流センター年報 2022年度

発行日：2024（令和6）年2月1日

編者：宇都宮大学留学生・国際交流センター
（編集担当：湯本浩之・飯塚明子）

発者：宇都宮大学留学生・国際交流センター
＜担当部局＞学務部学生支援課留学生・国際交流室
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町 350
TEL: 028-649-5099 FAX: 028-649-5115
Email: ryuugak1@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp
URL: <http://intl.utsunomiya-u.ac.jp/index.html>

印刷・製本：株式会社アートプレス

